

第 3 期上山町まち・ひと・しごと創生総合戦略 (地方版総合戦略) 基本目標 (案)

1. 人口ビジョンの検証結果

(1) 第2期総合戦略における人口の将来展望の考え方

- 上山市では、2015（平成27）年10月に上山市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、総合戦略）を策定するとともに、人口ビジョンにおける将来人口推計の結果に基づき、人口の将来展望を示した。

	条件
シナリオ	・2020（令和2）年より純移動率7%改善 ・2020（令和2）年より合計特殊出生率1.47へ上昇

人口の将来展望のシナリオ推計条件の仮定

①合計特殊出生率の仮定

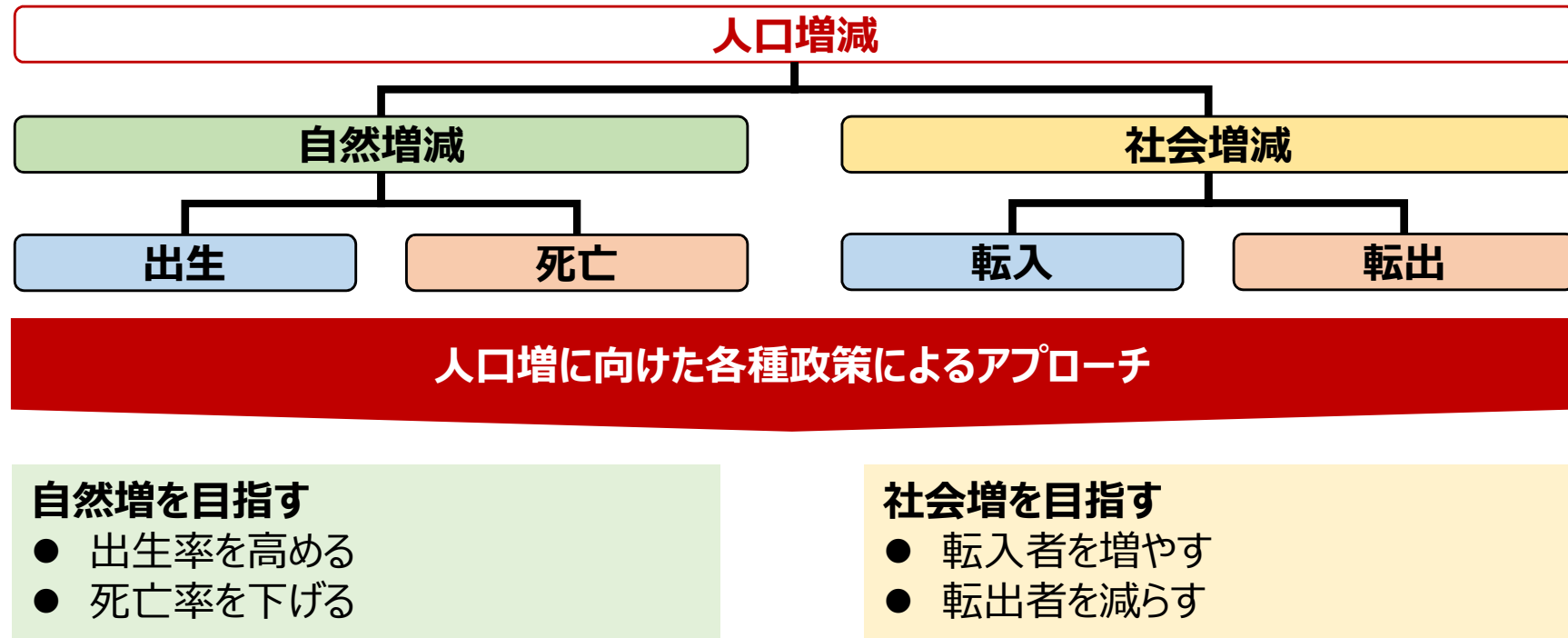
- 合計特殊出生率について、2013（平成25）年における山形県平均の1.47を2020（令和2）年から適用した。それまではパターン1と同様とした。
- 本市の合計特殊出生率は山形県の平均より低めに推移している。今後も、国・県・市の各レベルにおいて子育て支援が強化されると見込み、合計特殊出生率が近年の県平均に達すると仮定する。

②純移動率の仮定

- 15～19歳が20～24歳になる層から35～39歳が40～44歳になる各年齢層において、2005（平成17）年から2010（平成22）年の純移動率から7%改善した値を2020（令和2）年から適用した。それまではパターン1と同様とした。
- 地域の中核を担い、社会移動が盛んな15～19歳から40～44歳までの層を改善対象とした。同年齢層において、進学等の社会移動が生じやすい15～19歳が20～24歳になる層を除き最も純移動率のマイナスが大きい25～29歳が30～34歳になる女性の純移動率が、概ね0となる水準である7%を改善値とし、2060（令和42）年の人口は15,675人とした。

(2) 人口増に向けたアプローチ

- 人口は、出生・転入により増加し、死亡・転出により減少する。出生・死亡・移動（転入・転出）は、「人口変動の三要素」とも呼ばれる。
- 人口の維持・増加を目指す上で、いかにしてこれらに対するアプローチを行うかが求められる。



(参考) 新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）の感染拡大による人口変動への影響

- ・ 小峰（2023）は、現時点で判明している統計的な事実を基に、コロナショックの人口動態への影響と我が国の人口政策への影響を考察し、①出生数の減少、②合計特殊出生率の低下、③婚姻件数の減少、④結婚、出産の意欲の衰え、を指摘している。
- ・ また、厚生労働省他では、ポストコロナ時代における人口動態と社会変化の見通しに資する研究が行なわれている。

（３）人口目標の達成に向けた考え方

- 2020年時点の上山市の人口は29,110人で、第２期における人口の将来推計の同時点の推計値（29,774人）を下回った。
- 第８次振興計画では、将来都市像を達成するため、将来指標として、「令和13（2031）年度人口24,400人を下回らない」を掲げている。
- 第３期総合戦略では、第８次振興計画で掲げた人口水準を目指すために必要となるシナリオとして、下記を目指した各種施策にとりくむ。

シナリオ	・2025（令和７）年より合計特殊出生率1.22へ上昇 ・2025（令和７）年より純移動率４％改善
------	--

人口の将来展望におけるシナリオの推計条件の仮定

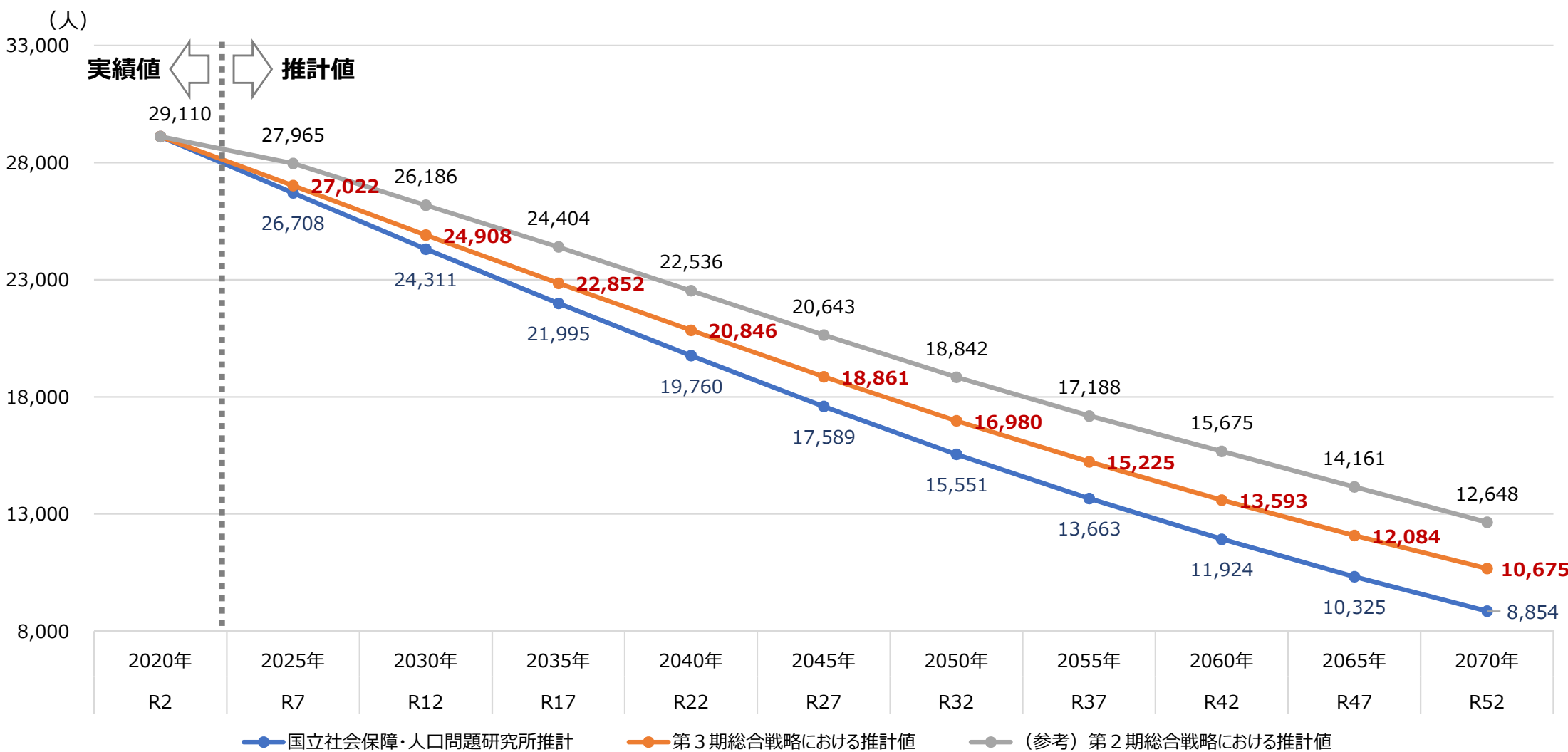
①合計特殊出生率の仮定

- 合計特殊出生率について、2023（令和５）年における山形県平均の1.22を2025（令和７）年から適用した。
- 本市の合計特殊出生率は山形県の平均より低めに推移している。今後も、国・県・市の各レベルにおいて子育て支援が強化されると見込み、合計特殊出生率が県平均に達すると仮定する。

②純移動率の仮定

- 第８次振興計画で定めている人口目標が達成可能な人口水準となるよう、地域の中核を担い、社会移動が盛んな15～19歳が20～24歳になる層から35～39歳が40～44歳になる各年齢層において、2015（平成27）年から2020（令和２）年の純移動率から、４％改善した値を2025（令和７）年から適用する。

(4) 第3期総合戦略における人口の将来展望



	R2	R7	R12	R17	R22	R27	R32	R37	R42	R47	R52
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
国立社会保障・人口問題研究所推計	29,110	26,708	24,311	21,995	19,760	17,589	15,551	13,663	11,924	10,325	8,854
第3期総合戦略における推計値	29,110	27,022	24,908	22,852	20,846	18,861	16,980	15,225	13,593	12,084	10,675
(参考) 第2期総合戦略における推計値	29,110	27,965	26,186	24,404	22,536	20,643	18,842	17,188	15,675	14,161	12,648

※2020年の値は国勢調査の実績値。また、第2期総合戦略における2065年、2070年の推計値については、2055年から2060年までの変化率がその後も一律に継続するものと仮定して算出している。

2. 人口動向分析

（前提）比較対象団体の設定

- 人口戦略会議は、2023（令和5）年12月に「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」を公表した。公表されたレポートでは、2014年の日本創成会議による人口から見た全国の地方自治体の「持続可能性」分析を踏まえた上で、新たな視点として、人口の「自然減対策」（出生率の向上）と「社会減対策」（人口流出の是正）の両面からの分析を行っている。
- 上山市は、移動仮定における減少率が50%以上の「消滅可能性都市」に分類された。
- 人口動向分析にあたり、山形県内の4つの地方自治体を比較対象団体に設定した。

自治体の人口特性別9分類（自然減対策と社会減対策）

A 自立持続可能性自治体：65

B ブラックホール型自治体：25（B-①：18、B-②：7）

C 消滅可能性自治体：744（C-①：176、C-②：545、C-③：23）

D その他の自治体：895（D-①：121、D-②：260、D-③：514）

封鎖人口 移動仮定	減少率20%未満	減少率20～50%未満	減少率50%以上
減少率20%未満	A 自立持続可能性	D-① 自然減対策が必要	B-① 自然減対策が極めて必要
減少率20～50%未満	D-② 社会減対策が必要	D-③ 自然減対策が必要 社会減対策が必要	B-② 自然減対策が極めて必要 社会減対策が必要
減少率50%以上	C-① 社会減対策が極めて必要	C-② 自然減対策が必要 社会減対策が極めて必要	C-③ 自然減対策が極めて必要 社会減対策が極めて必要

（注）縦軸および横軸の「減少率」は、若年女性人口（20～39歳）の減少率

- 上山市は、移動仮定における減少率が50%以上の「消滅可能性都市」に分類された。
- 前回比較では「γ-②」に分類され、「消滅可能性自治体」に変わりはなく、**若年女性人口減少率が悪化している**ことが示された。

比較対象団体の設定

A. 消滅可能性自治体から脱却した団体

- 天童市
- 南陽市

B. 消滅可能性自治体に追加された団体

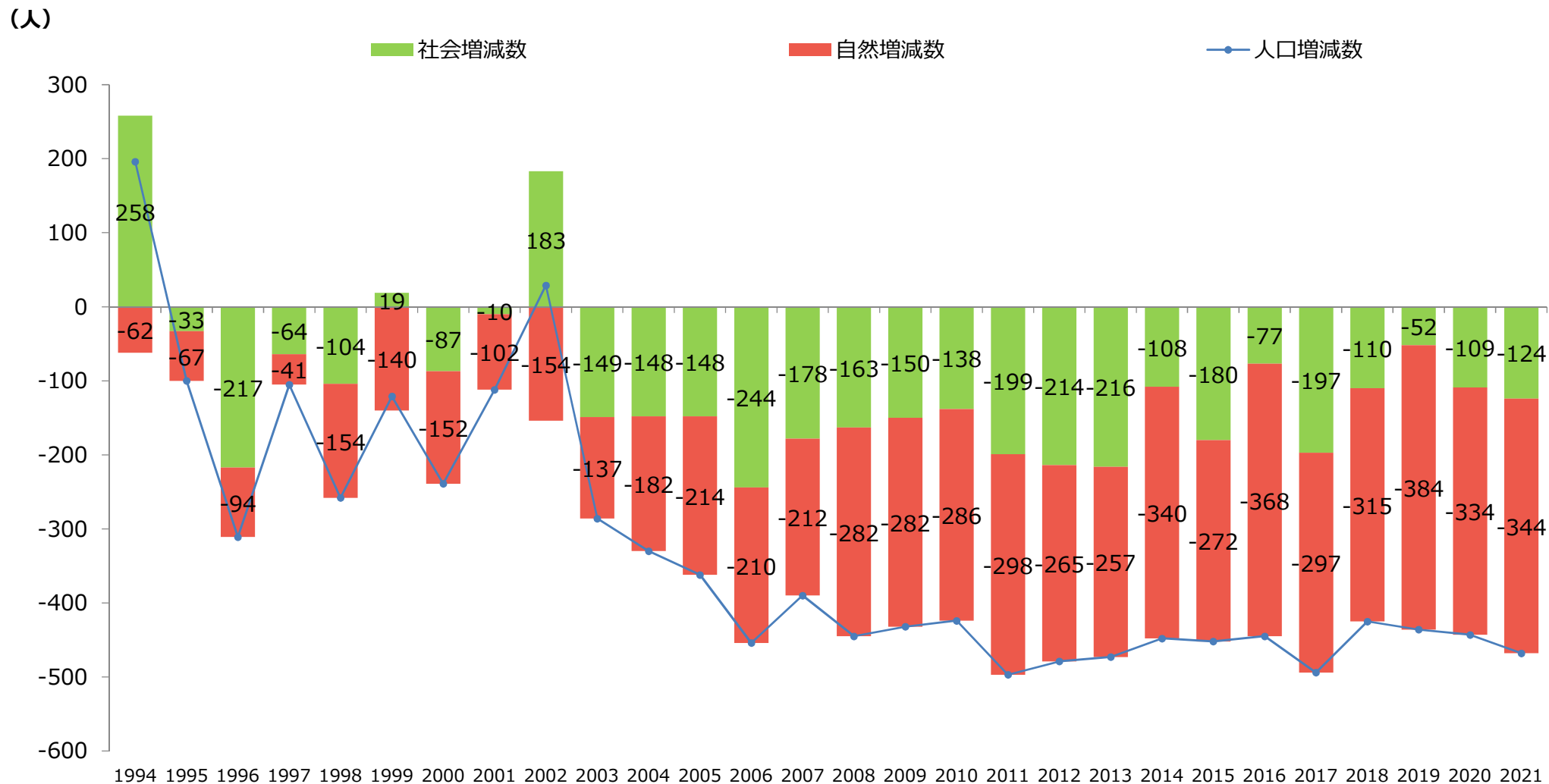
- 長井市
- 高畠町

(参考) 山形県内の団体の状況

自治体名	分析結果				2050年人口（移動想定）			2050年人口（封鎖人口）			2020年	
山形市	D-③		△②	△6.8	▼31.9	17,410	198,986	▼36.6	16,212	192,235	25,570	247,590
米沢市	D-③		▼②	▼2.1	▼48.8	3,655	53,112	▼34.4	4,683	59,232	7,141	81,252
鶴岡市	C-②	γ-①	△②	△1.3	▼51.1	4,761	76,968	▼26.6	7,152	84,377	9,744	122,347
酒田市	C-②	γ-①	△②	△1.5	▼55.9	3,412	60,768	▼31.5	5,308	66,257	7,745	100,273
新庄市	C-②	γ-②	▼②	▼8.0	▼59.0	1,164	19,662	▼31.1	1,957	23,937	2,842	34,432
寒河江市	D-③		△②	△7.3	▼40.9	2,189	29,014	▼25.2	2,770	30,740	3,702	40,189
上山市	C-②	γ-②	▼②	▼0.4	▼61.6	833	15,550	▼37.3	1,362	17,977	2,172	29,110
村山市	C-②	γ-②	▼②	▼8.3	▼62.5	593	11,556	▼31.4	1,084	14,163	1,581	22,516
長井市	C-②	β	▼②	▼2.1	▼51.9	1,055	16,881	▼26.3	1,616	18,602	2,192	26,543
天童市	D-③	α	△①	△15.3	▼36.0	3,951	49,037	▼26.2	4,555	49,643	6,171	62,140
東根市	D-③		▼②	▼0.8	▼25.0	3,605	41,769	▼22.0	3,752	39,789	4,808	47,682
尾花沢市	C-②	γ-②	▼②	▼1.5	▼70.0	279	6,207	▼21.9	726	9,072	929	14,971
南陽市	D-③	α	△②	△1.5	▼49.6	1,324	19,390	▼25.2	1,963	22,140	2,626	30,420
山辺町	C-②	β	▼①	▼14.8	▼50.3	559	8,978	▼31.9	766	9,672	1,124	13,725
中山町	C-②	γ-②	▼②	▼2.8	▼57.3	363	6,417	▼31.3	584	7,321	850	10,746
河北町	C-②	γ-②	▼②	▼0.9	▼51.3	639	10,671	▼25.4	979	11,926	1,312	17,641
西川町	C-②	γ-②	▼①	▼10.9	▼72.4	81	1,987	▼33.4	195	2,698	293	4,956
朝日町	C-②	γ-②	▼②	▼3.3	▼68.2	119	2,835	▼27.0	273	3,676	374	6,366
大江町	C-②	γ-②	▼②	▼3.5	▼60.4	203	4,059	▼26.2	378	4,824	512	7,646
大石田町	C-②	γ-①	△②	△1.9	▼65.7	144	3,082	▼34.8	274	3,879	420	6,577
金山町	C-②	γ-②	▼②	▼4.2	▼69.1	112	2,317	▼22.4	281	3,378	362	5,071
最上町	C-①	γ-①	△②	△6.8	▼62.6	186	3,830	▼11.7	439	5,097	497	8,080
舟形町	C-②	γ-②	▼②	▼3.5	▼65.2	105	2,436	▼24.5	228	2,968	302	5,007
真室川町	C-①	γ-②	▼②	▼4.5	▼63.8	162	3,176	▼17.9	368	4,329	448	7,203
大蔵村	C-①	γ-①	△②	△6.6	▼70.6	57	1,346	▼10.3	174	1,988	194	3,028
鮭川村	C-①	γ-①	△①	△12.4	▼65.8	78	1,776	▼6.6	213	2,408	228	3,902
戸沢村	C-②	γ-②	▼②	▼1.5	▼75.1	73	1,848	▼34.5	192	2,453	293	4,199
高畠町	C-②	β	▼②	▼2.4	▼50.9	906	13,826	▼25.4	1,376	16,121	1,845	22,463
川西町	C-②	γ-①	△②	△3.0	▼61.6	406	7,107	▼26.5	778	9,299	1,058	14,558
小国町	C-①	γ-②	▼②	▼8.0	▼61.7	155	3,298	▼13.1	352	4,406	405	7,107
白鷹町	C-②	γ-②	▼②	▼5.1	▼62.5	327	6,660	▼26.8	639	8,222	873	12,890
飯豊町	C-②	γ-①	△②	△4.1	▼56.1	215	3,508	▼20.4	390	4,492	490	6,613
三川町	D-②	α	△①	△18.8	▼34.1	397	5,848	▼7.6	556	5,844	602	7,601
庄内町	C-②	γ-②	▼②	▼2.7	▼60.4	581	10,773	▼26.5	1,079	13,290	1,468	20,151
遊佐町	C-①	γ-①	△②	△3.1	▼65.8	258	6,160	▼16.6	630	7,823	755	13,032

（１）自然増減・社会増減の推移①上山市

■ 本市の人口減少の主たる原因は、自然増減である。



【出典】総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工

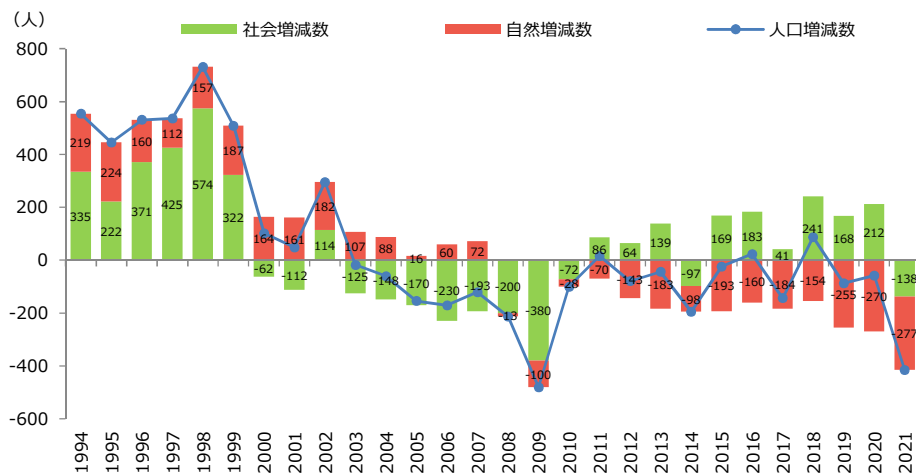
【注記】2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字。"

（１）自然増減・社会増減の推移②比較対象団体

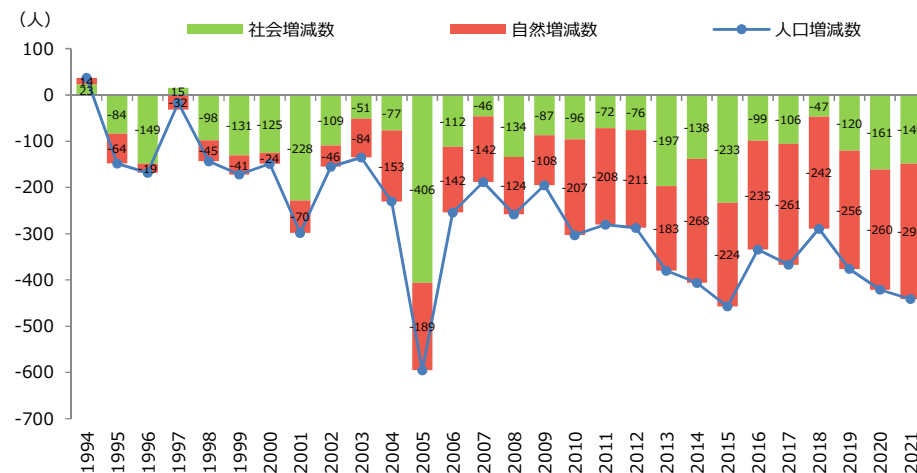
■ A.消滅可能性自治体から脱却した団体、B.消滅可能性自治体に追加された団体のいずれの団体も、上山市と同様に、人口減少の主たる原因は、自然増減である。

A.
消滅可能性
自治体から
脱却した団体

天童市

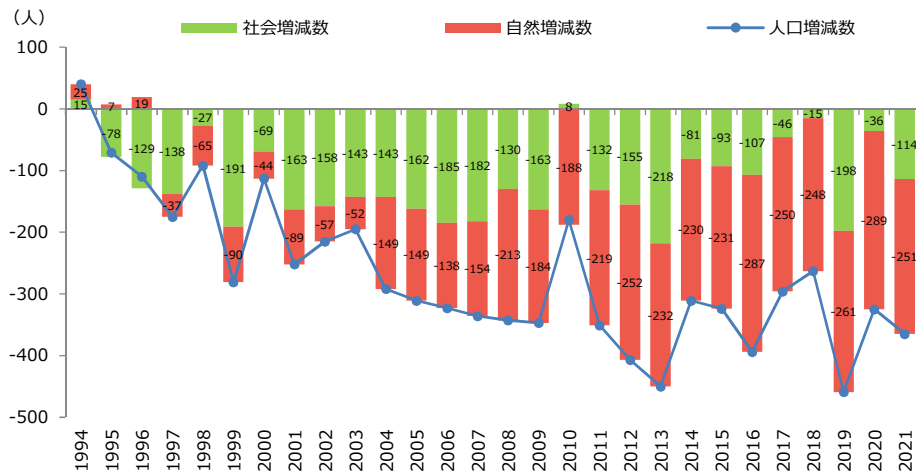


南陽市

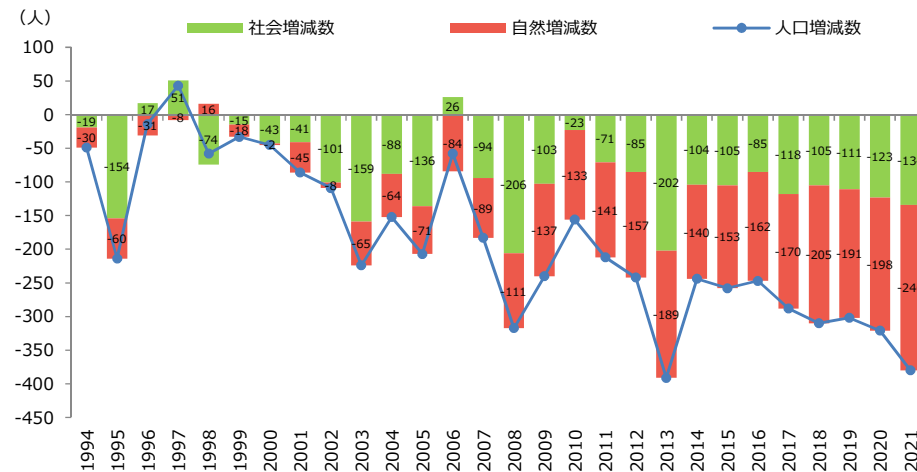


B.
消滅可能性
自治体に
追加された団体

長井市



高畠町



【出典】総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工
 【注記】2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字。"

(2) 出生数・出生率の推移

- 上山市の出生率は、比較対象団と比較して、特に低い。
- 上山市と比較対象団体のいずれも、2019年以降の出生数は減少傾向にあるといえる。

①出生数

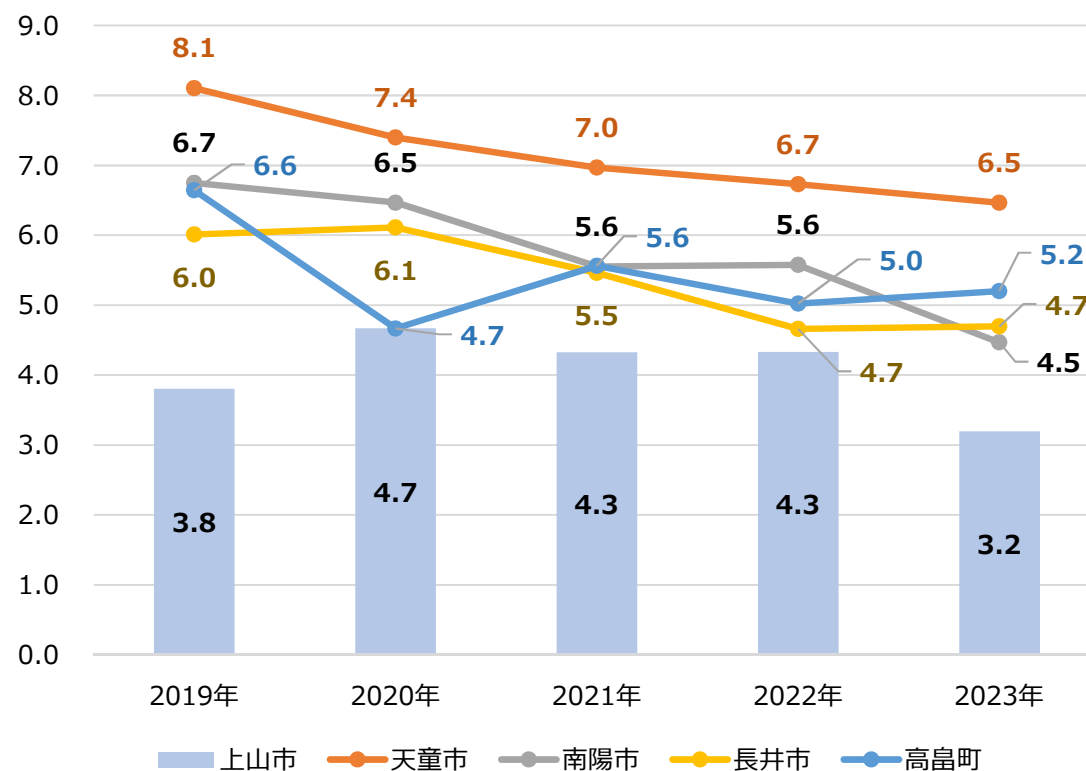
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
上山市	115	139	126	124	90
天童市	503	459	433	416	397
南陽市	211	200	169	167	132
長井市	161	161	145	122	121
高畠町	153	106	125	111	113

②出生率

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
上山市	3.8	4.7	4.3	4.3	3.2
天童市	8.1	7.4	7.0	6.7	6.5
南陽市	6.7	6.5	5.6	5.6	4.5
長井市	6.0	6.1	5.5	4.7	4.7
高畠町	6.6	4.7	5.6	5.0	5.2

(%)

出生率の推移

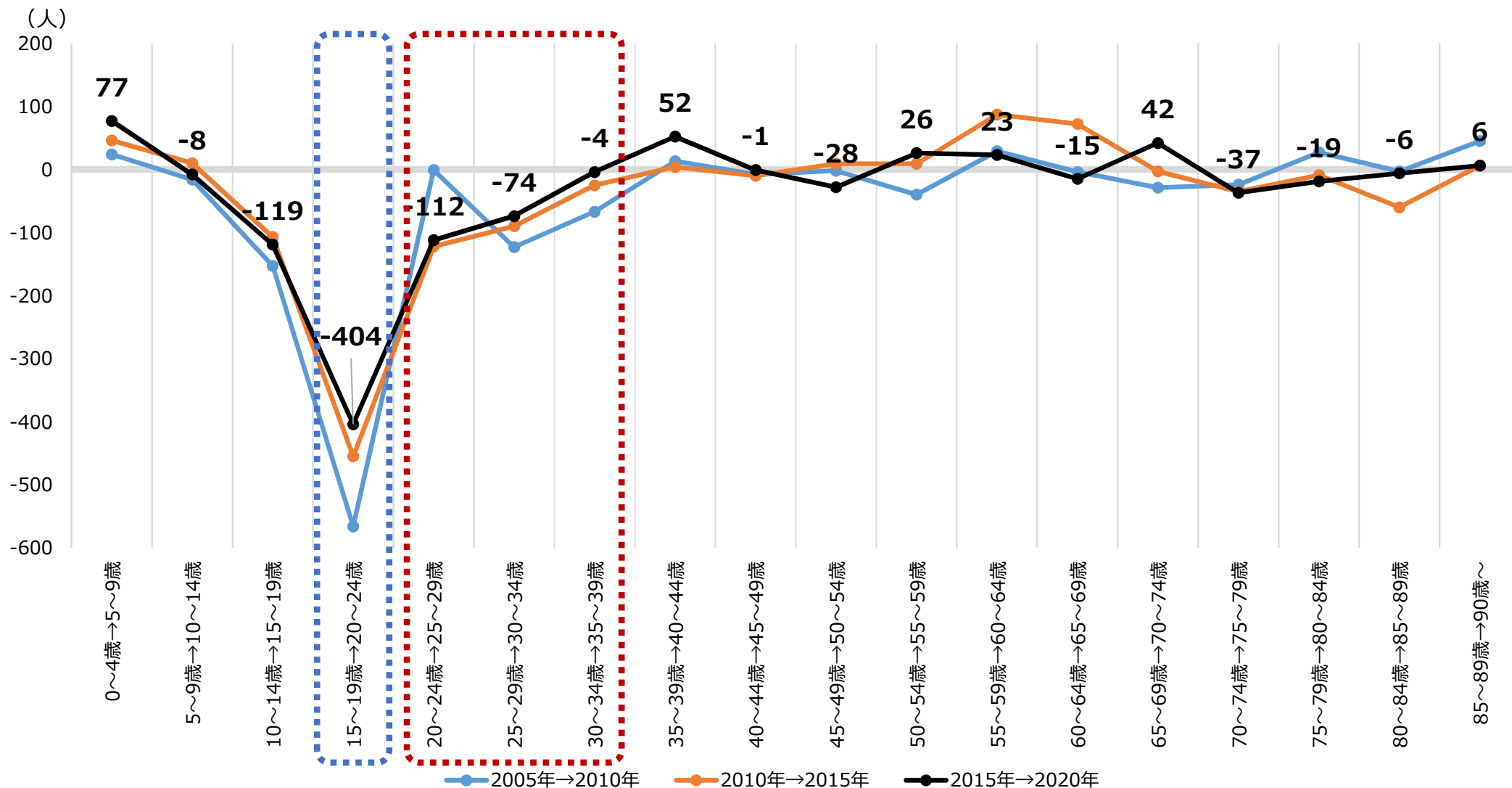


【注記】1) 出生率 = 当年出生数 / 前年人口 × 1.000
 2) 合計特殊出生率は保健所単位のため出生率を使用

【出典】山形県「平成 30 年山形県の人口と世帯数」

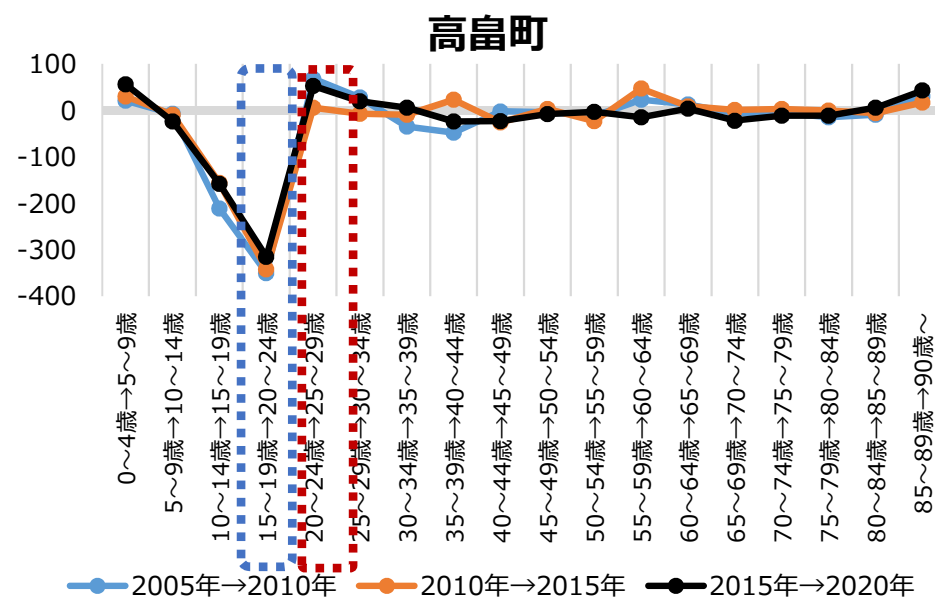
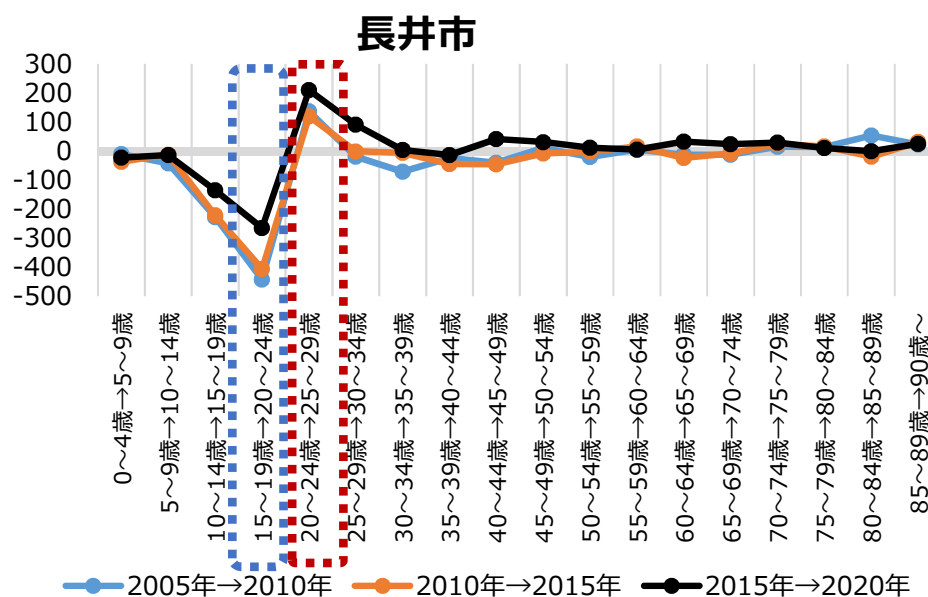
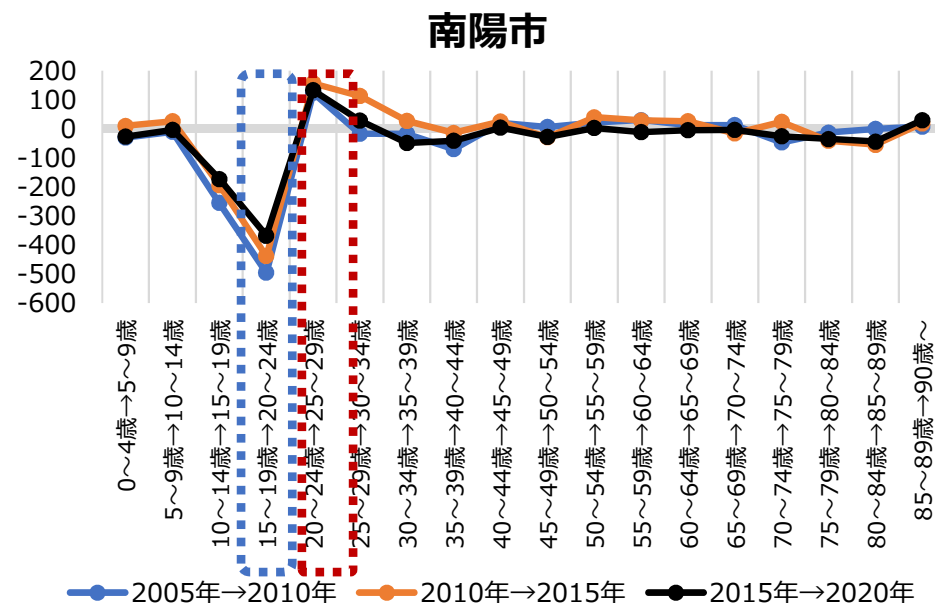
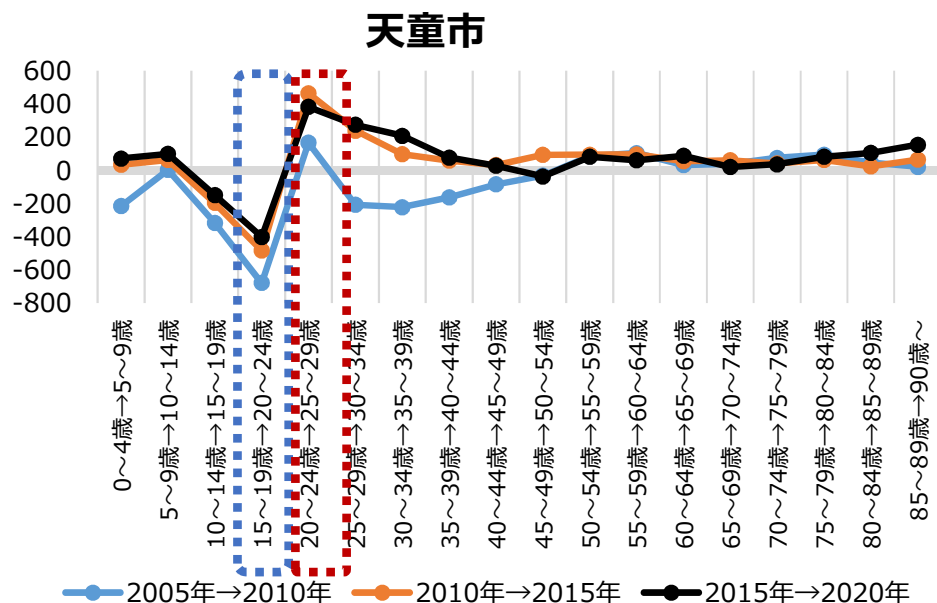
(3) 年齢階級別純移動数の時系列分析① 上山市

- 上山市では、15～19歳→20～24歳の転出超過が最も大きく、この傾向は周辺の市町も変わらない。
- しかし、20～24歳→25～29歳の人口の戻りが比較自治体よりも極端に悪く、加えて、30～34歳→35～39歳にかけても転出超過が続いており、この傾向は比較対象団体と異なる特徴であるといえる。



(3) 年齢階級別純移動数の時系列分析②比較対象団体

- 比較対象団体においても、上山市と同様、15～19歳→20～24歳の転出超過が最も大きくなっているが、20～24歳→25～29歳の人口が一定程度戻ってきている。



(4)「若年女性人口」の減少率

- 上山市の「20～39歳の女性人口」（若年女性人口）は2000年以降減少が続き、減少率は高まっている。
- 比較対象団体である天童市では、2005～2010年にかけて減少率が大幅に高まったが、2010～2015年にかけて低下し、2015年～2020年にかけて再び上昇に転じている。
- 全体的な傾向として、上山市と比較対象団体のいずれも、2020年以降の若年女性人口の減少率は高まっている。

①若年女性人口

	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
上山市	3,750	3,473	3,101	2,614	2,152
天童市	8,095	8,015	6,959	6,572	6,145
南陽市	3,803	3,682	3,382	3,048	2,618
長井市	3,196	2,999	2,638	2,380	2,169
高畠町	2,862	2,733	2,451	2,175	1,842

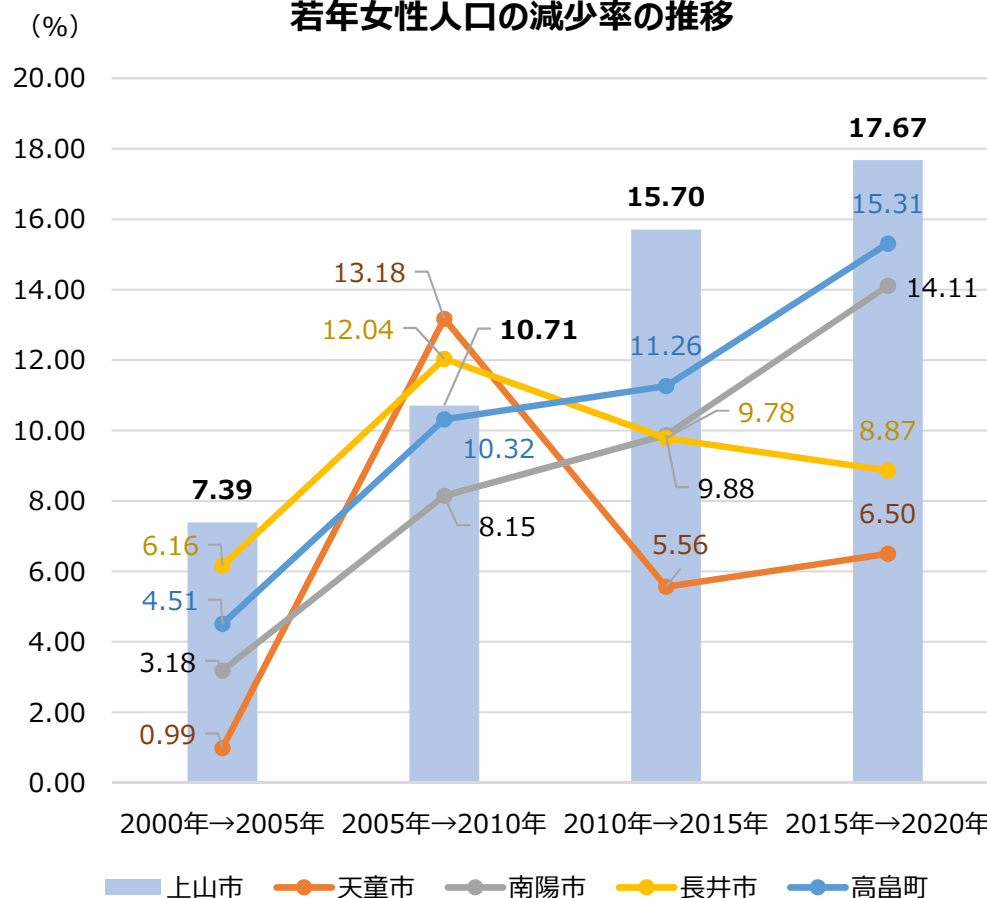
②若年女性人口の減少率

	2000年 →2005年	2005年 →2010年	2010年 →2015年	2015年 →2020年
上山市	7.39	10.71	15.70	17.67
天童市	0.99	13.18	5.56	6.50
南陽市	3.18	8.15	9.88	14.11
長井市	6.16	12.04	9.78	8.87
高畠町	4.51	10.32	11.26	15.31

【注記】減少率=（前回人口-今回人口）/前回人口×100

【出典】総務省「国勢調査」人口等基本集計に基づき日本生産性本部作成

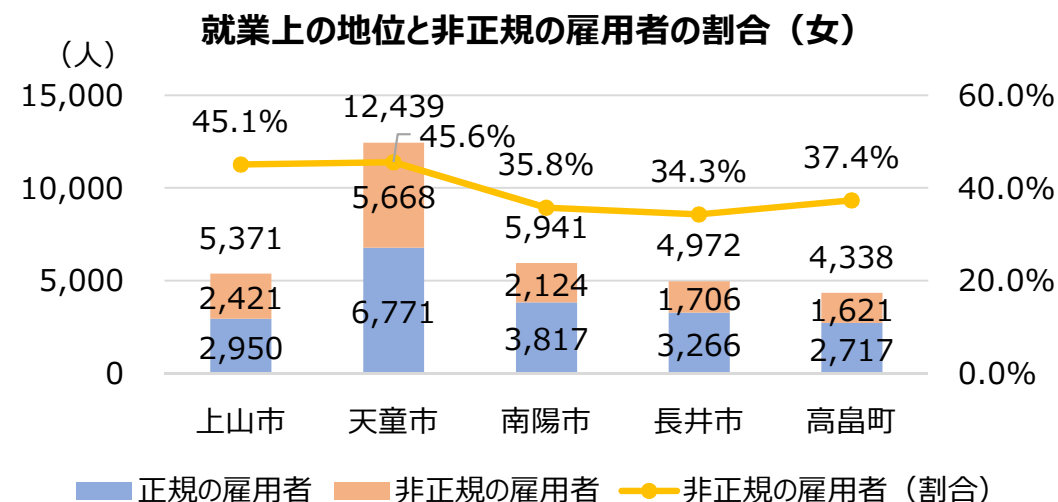
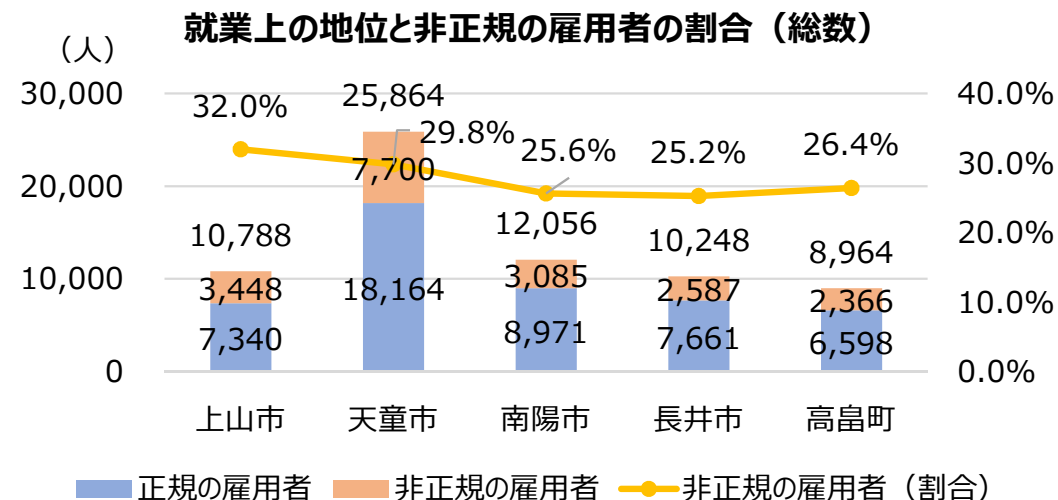
若年女性人口の減少率の推移



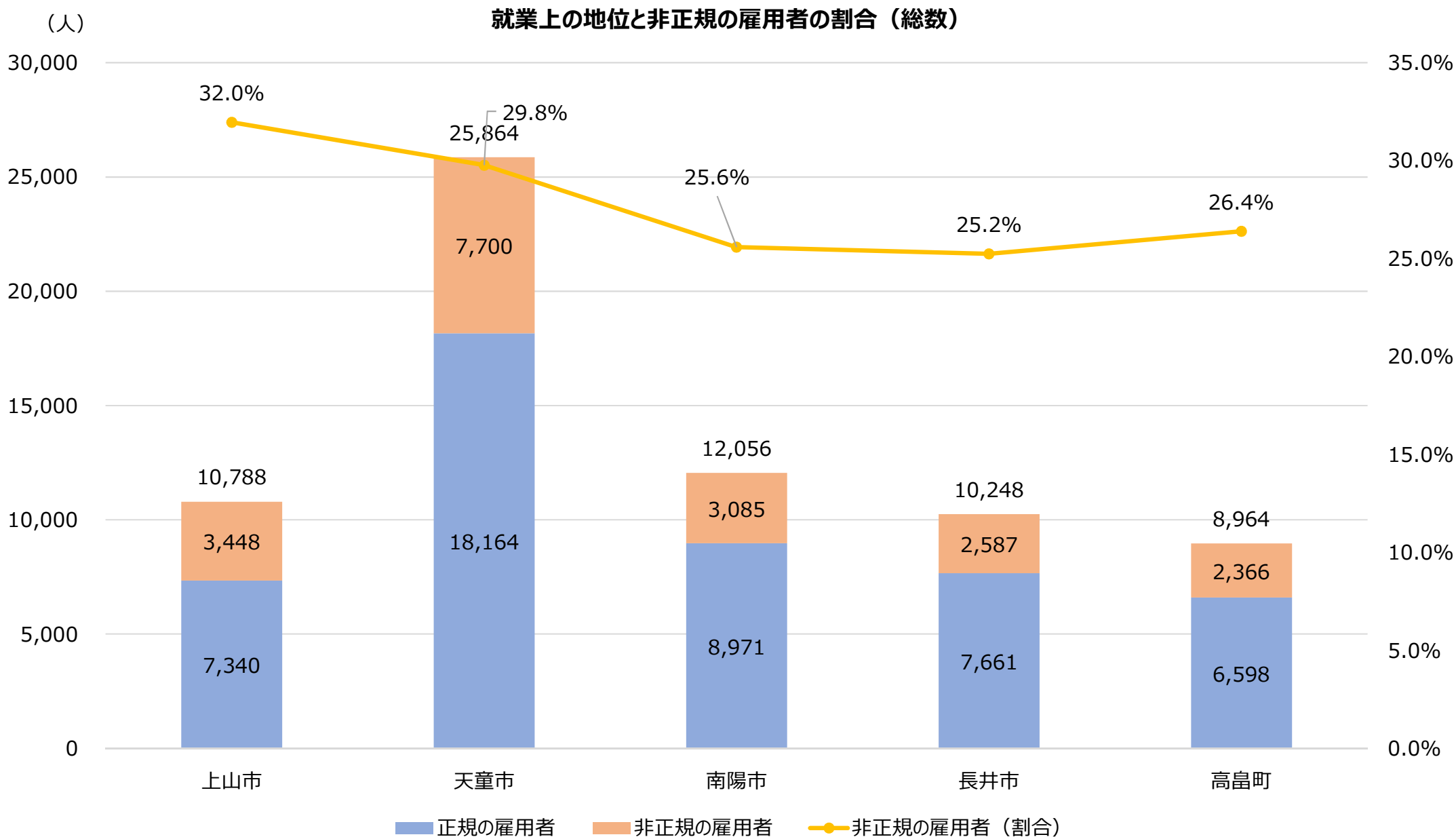
(5) 人口における就業形態（従業上の地位）

- 雇用者の就業上の地位について、比較対象団体の中で上山市は非正規の雇用者の割合が最も高い。
- また、女性についてみると、比較対象団体すべてで、男性より女性の非正規の雇用者の割合が高い。

		雇用者 (総数)	正規の 雇用者	非正規の雇用者		
			正規の 職員・ 従業員	小計	労働者派遣 事業所の 派遣社員	パート・ アルバイト・ その他
上山市	総数	10,788	7,340	3,448	228	3,220
	男	5,417	4,390	1,027	92	935
	女	5,371	2,950	2,421	136	2,285
天童市	総数	25,864	18,164	7,700	818	6,882
	男	13,425	11,393	2,032	325	1,707
	女	12,439	6,771	5,668	493	5,175
南陽市	総数	12,056	8,971	3,085	320	2,765
	男	6,115	5,154	961	141	820
	女	5,941	3,817	2,124	179	1,945
長井市	総数	10,248	7,661	2,587	222	2,365
	男	5,276	4,395	881	93	788
	女	4,972	3,266	1,706	129	1,577
高畠町	総数	8,964	6,598	2,366	274	2,092
	男	4,626	3,881	745	122	623
	女	4,338	2,717	1,621	152	1,469

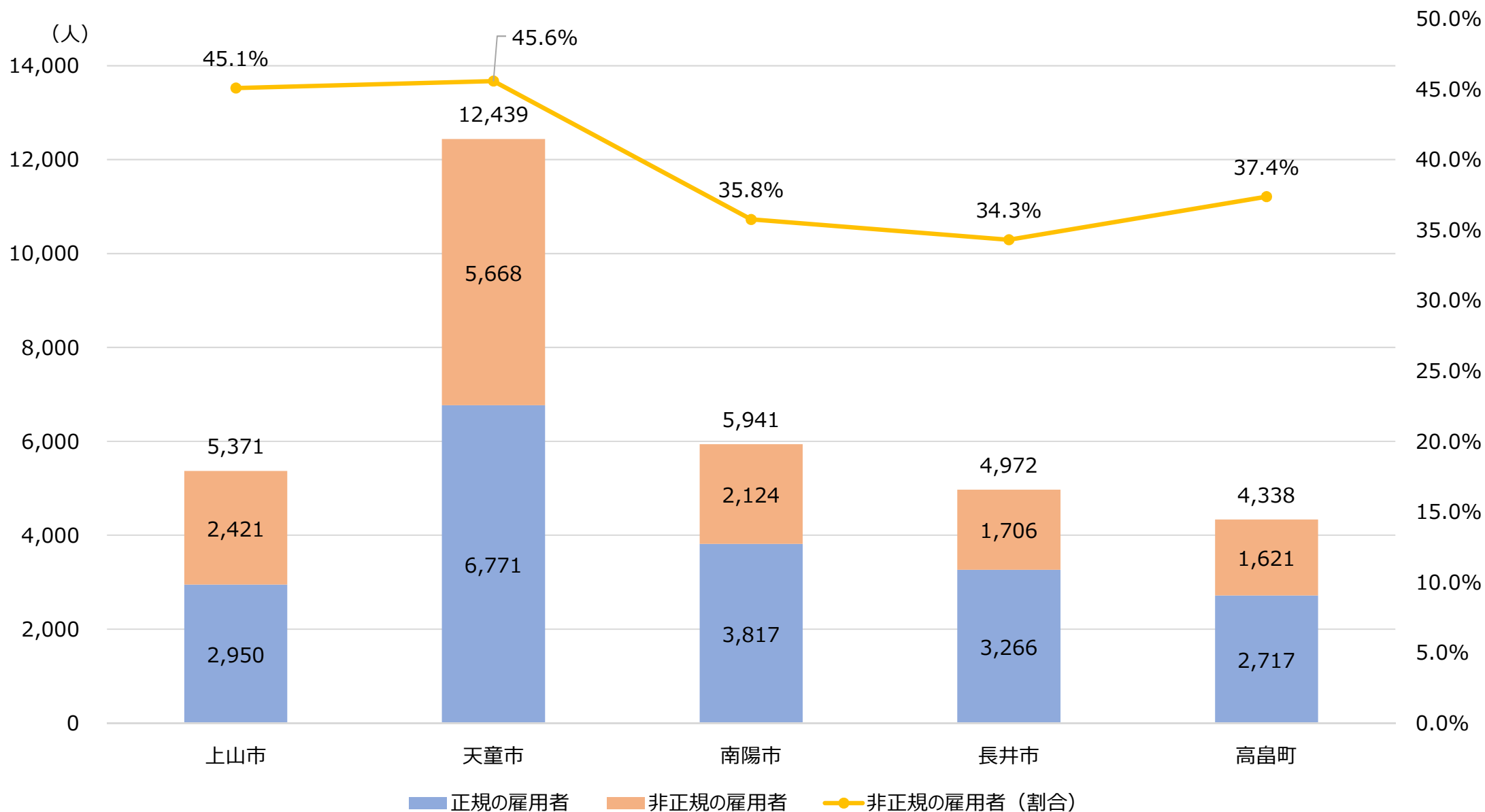


(5) 人口における就業形態（従業上の地位）



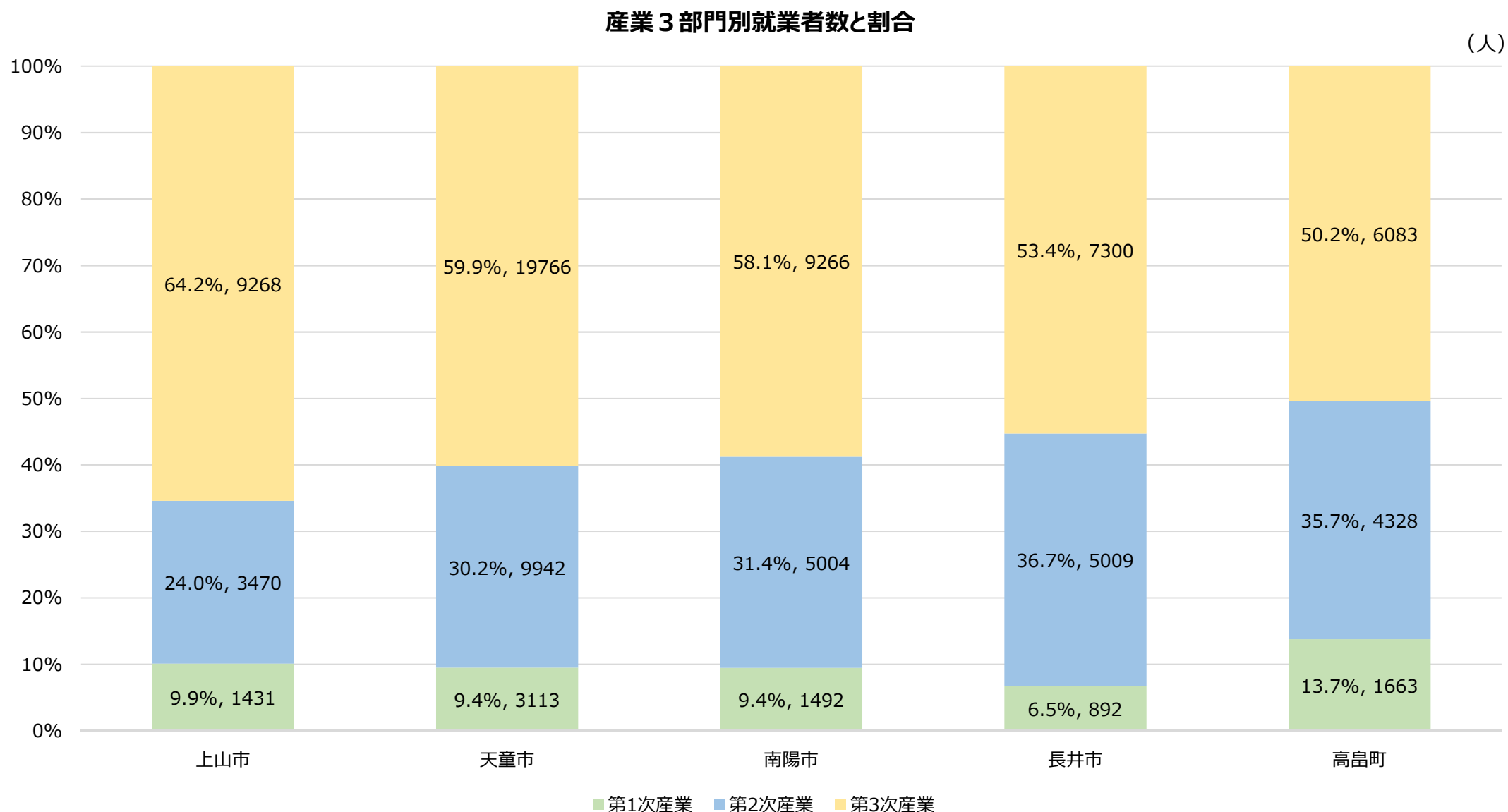
(5) 人口における就業形態（従業上の地位）

就業上の地位と非正規の雇用者の割合（女）



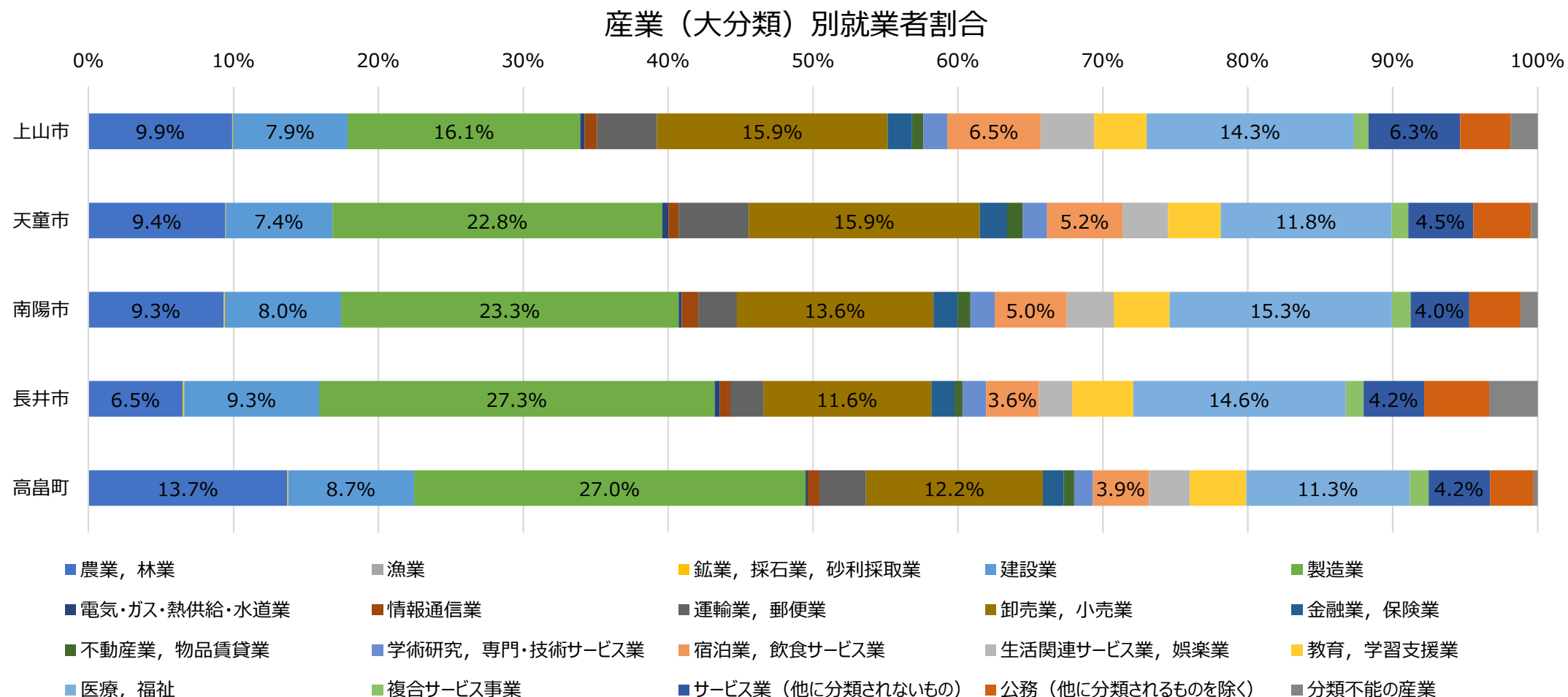
（６）人口における業種（産業３部門別）の内訳

■ 上山市は、比較対象団体の中で第３次産業の就業割合が最も高い。



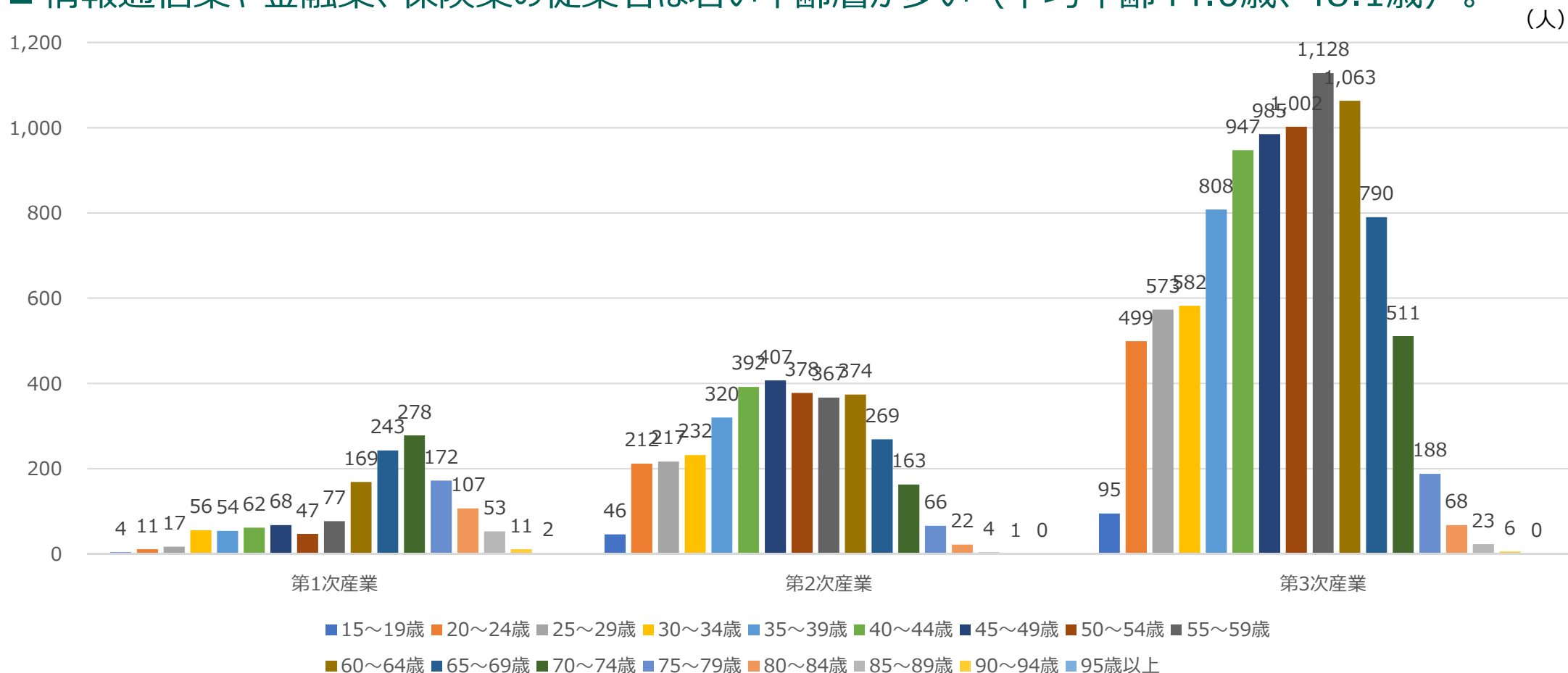
（６）人口における業種（大分類別）の内訳

- 上山市の農業、林業の就業者の割合は9.9%と、高畠町（13.7%）に次いで高い。
- 上山市の宿泊業、飲食サービス業の就業者割合は6.5%で、他の市町村と比べて高い。
- 上山市の製造業の就業者割合は16.1%で、他の市町村（天童市、南陽市、長井市、高畠町）と比べて低い水準にある。



(7) 産業別の年齢階級別就業者数①上山市

- 農業、林業において高齢者（65歳以上）の就業者が多く、特に平均年齢が高い（64.6歳）。農業が高齢者の主要な就業先であることを示唆している。
- 市内で見ると、製造業と卸売業、小売業も比較的多くの就業者を抱えており、これらの産業が地域の経済活動の中心であることが伺える。
- 情報通信業や金融業、保険業の従業者は若い年齢層が多い（平均年齢44.0歳、48.1歳）。

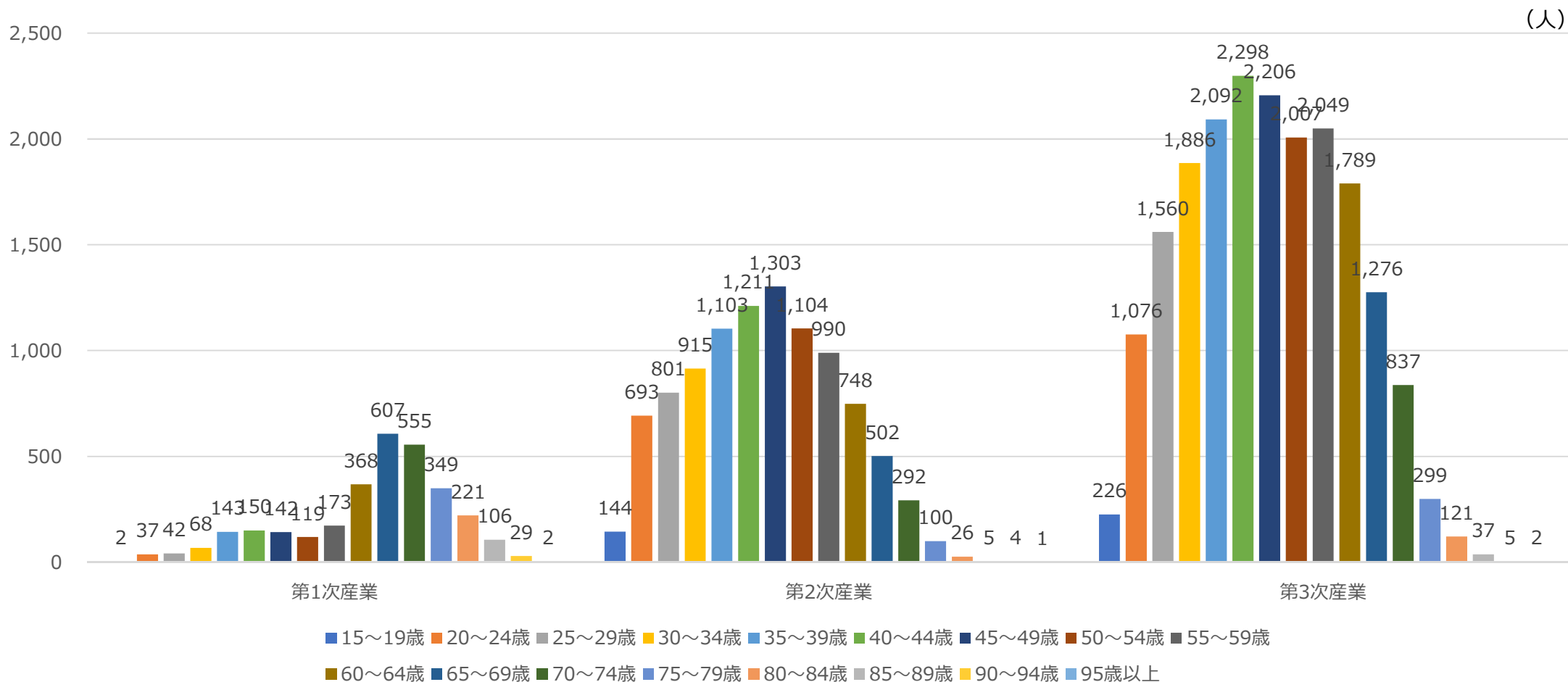


(7) 産業別の年齢階級別就業者数① 山市

産業3部門	産業	就業者数 (15～64歳)	就業者数 (65歳以上)	就業者数 (75歳以上)	就業者数 (85歳以上)	就業者数 (総数)	平均年齢
-	0_ 総数	11323	3119	788	120	14442	51.2
第1次	A_ 農業, 林業	565	866	345	66	1431	64.6
第1次	B_ 漁業	-	-	-	-	-	-
第2次	C_ 鉱業, 採石業, 砂利採取業	6	2	-	-	8	56.0
第2次	D_ 建設業	890	253	38	3	1143	51.0
第2次	E_ 製造業	2049	270	55	2	2319	47.4
第3次	F_ 電気・ガス・熱供給・水道業	39	5	1	-	44	50.3
第3次	G_ 情報通信業	118	6	1	-	124	44.0
第3次	H_ 運輸業, 郵便業	502	93	7	-	595	51.5
第3次	I_ 卸売業, 小売業	1896	404	91	13	2300	49.8
第3次	J_ 金融業, 保険業	218	23	4	-	241	48.1
第3次	K_ 不動産業, 物品賃貸業	87	28	8	2	115	54.0
第3次	L_ 学術研究, 専門・技術サービス業	180	57	3	-	237	53.6
第3次	M_ 宿泊業, 飲食サービス業	688	248	52	5	936	51.5
第3次	N_ 生活関連サービス業, 娯楽業	387	144	30	3	531	52.2
第3次	O_ 教育, 学習支援業	463	57	11	-	520	49.8
第3次	P_ 医療, 福祉	1851	217	23	3	2068	47.1
第3次	Q_ 複合サービス事業	135	9	-	-	144	48.8
第3次	R_ サービス業（他に分類されないもの）	650	264	54	3	914	54.4
第3次	S_ 公務（他に分類されるものを除く）	468	31	-	-	499	45.3
-	T_ 分類不能の産業	131	142	65	20	273	60.1

(7) 産業別の年齢階級別就業者数②天童市

- 農業、林業の就業者数が非常に多く、特に高齢者の就業者が多い（65歳以上の就業者数が1869人、平均年齢64.4歳）。高齢者が農業に多く従事していることを示している。
- 製造業の就業者数が最も多く、特に若年層（15～64歳）の就業者数が多い（7043人、平均年齢44.5歳）。若年層が製造業に多く従事していることが分かる。
- 公務の平均年齢が低め（42.4歳）であり、比較的若い年齢層が公務に従事していることが分かる。

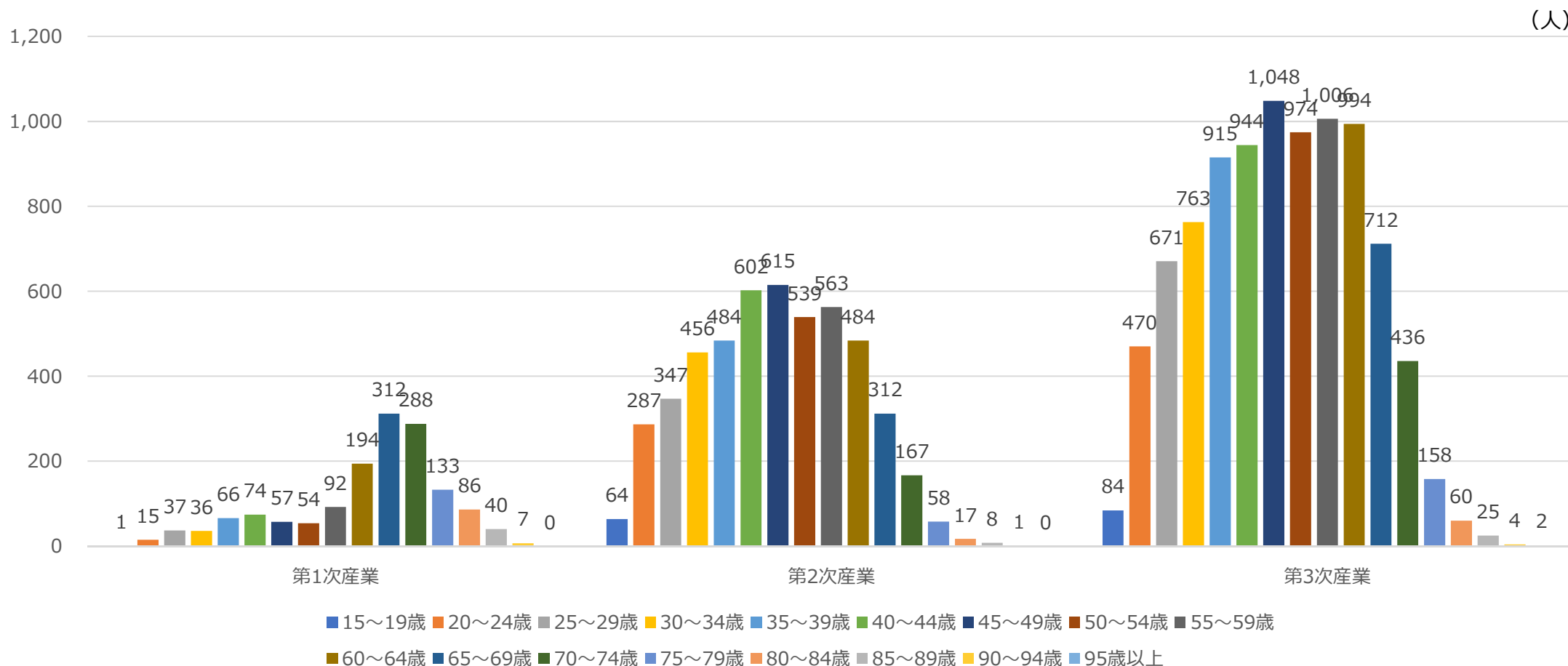


(7) 産業別の年齢階級別就業者数②天童市

産業3部門	産業	就業者数 (15～64歳)	就業者数 (65歳以上)	就業者数 (75歳以上)	就業者数 (85歳以上)	就業者数 (総数)	平均年齢
-	0_総数	27545	5427	1328	197	32972	48.3
第1次	A_農業, 林業	1244	1869	707	137	3113	64.4
第1次	B_漁業	-	-	-	-	-	-
第2次	C_鉱業, 採石業, 砂利採取業	9	1	-	-	10	50.3
第2次	D_建設業	1960	465	55	1	2425	48.5
第2次	E_製造業	7043	464	81	9	7507	44.5
第3次	F_電気・ガス・熱供給・水道業	137	6	2	-	143	47.2
第3次	G_情報通信業	214	13	1	-	227	45.0
第3次	H_運輸業, 郵便業	1428	170	14	1	1598	48.4
第3次	I_卸売業, 小売業	4536	717	152	22	5253	47.1
第3次	J_金融業, 保険業	584	41	7	-	625	45.1
第3次	K_不動産業, 物品賃貸業	268	83	23	4	351	52.8
第3次	L_学術研究, 専門・技術サービス業	452	104	14	1	556	50.6
第3次	M_宿泊業, 飲食サービス業	1367	350	65	4	1717	48.4
第3次	N_生活関連サービス業, 娯楽業	826	213	60	1	1039	49.3
第3次	O_教育, 学習支援業	1105	93	11	-	1198	47.0
第3次	P_医療, 福祉	3589	300	37	5	3889	44.7
第3次	Q_複合サービス事業	350	28	2	-	378	45.2
第3次	R_サービス業（他に分類されないもの）	1060	416	76	6	1476	52.7
第3次	S_公務（他に分類されるものを除く）	1273	43	-	-	1316	42.4
-	T_分類不能の産業	100	51	21	6	151	51.6

(7) 産業別の年齢階級別就業者数③南陽市

- 農業、林業の就業者数が多く、特に高齢者の割合が高い（65歳以上の就業者数が863人、平均年齢63.4歳）。高齢者が農業に従事している傾向を示している。
- 製造業が大きな雇用の柱となっており、若年層（15～64歳）の就業者が多い（3408人、平均年齢45.8歳）。
- 医療、福祉の就業者数も多く、幅広い年齢層にわたって就業者が存在している。

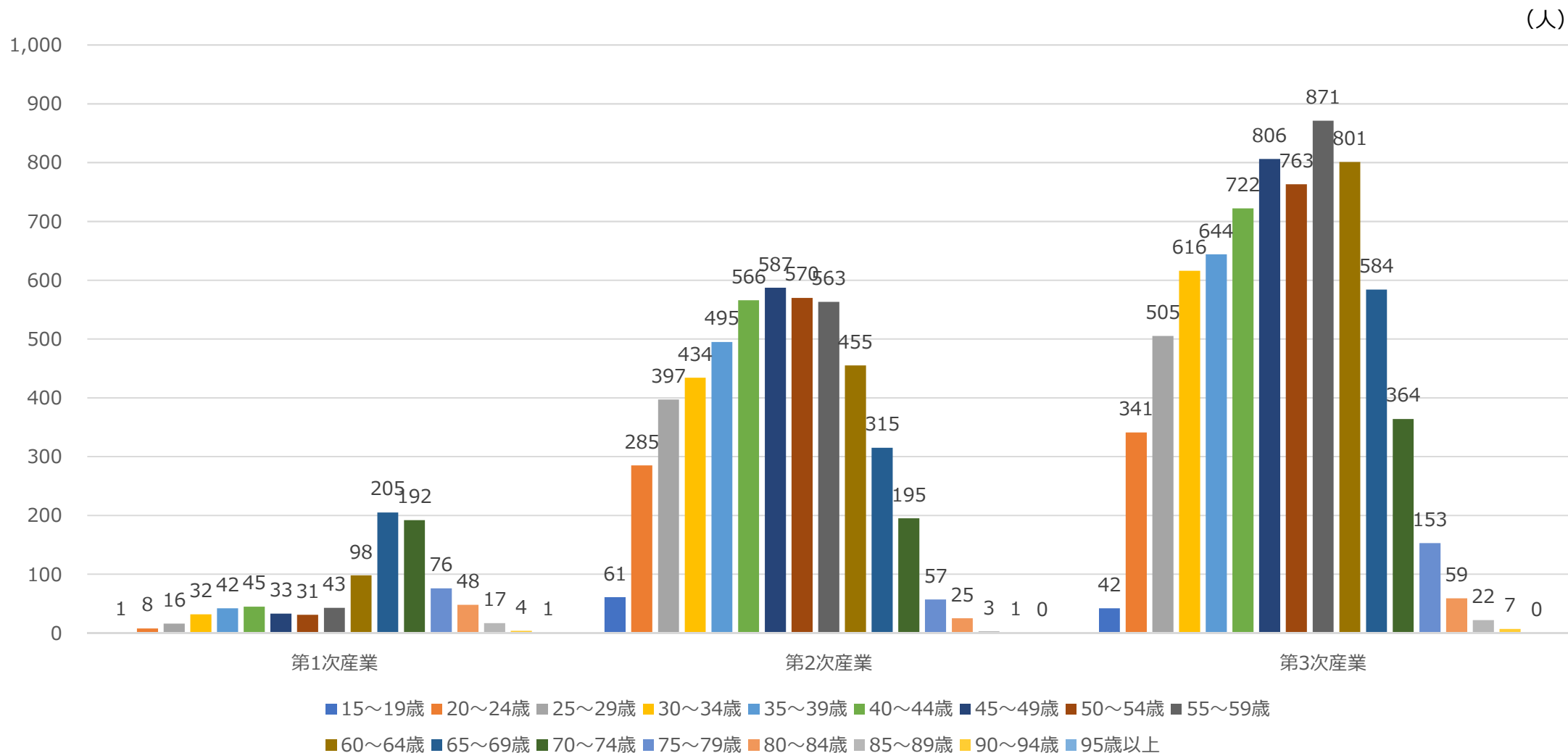


(7) 産業別の年齢階級別就業者数③南陽市

産業3部門	産業	就業者数 (15～64歳)	就業者数 (65歳以上)	就業者数 (75歳以上)	就業者数 (85歳以上)	就業者数 (総数)	平均年齢
-	0_総数	13090	2861	607	88	15951	49.5
第1次	A_農業, 林業	626	863	265	46	1489	63.4
第1次	B_漁業	-	3	1	1	3	75.8
第2次	C_鉱業, 採石業, 砂利採取業	8	2	1	-	10	50.2
第2次	D_建設業	1025	252	38	3	1277	50.9
第2次	E_製造業	3408	309	45	6	3717	45.8
第3次	F_電気・ガス・熱供給・水道業	32	-	-	-	32	44.3
第3次	G_情報通信業	178	6	-	-	184	41.7
第3次	H_運輸業, 郵便業	355	70	7	-	425	51.5
第3次	I_卸売業, 小売業	1784	378	94	9	2162	49.8
第3次	J_金融業, 保険業	236	30	3	1	266	47.7
第3次	K_不動産業, 物品賃貸業	96	45	7	-	141	54.8
第3次	L_学術研究, 専門・技術サービス業	209	59	7	1	268	52.3
第3次	M_宿泊業, 飲食サービス業	582	211	44	7	793	51.4
第3次	N_生活関連サービス業, 娯楽業	387	129	28	2	516	52.7
第3次	O_教育, 学習支援業	574	41	7	2	615	46.9
第3次	P_医療, 福祉	2222	225	19	4	2447	45.8
第3次	Q_複合サービス事業	197	10	1	-	207	46.4
第3次	R_サービス業（他に分類されないもの）	479	166	30	5	645	52.7
第3次	S_公務（他に分類されるものを除く）	538	27	2	-	565	43.9
-	T_分類不能の産業	154	35	8	1	189	48.3

(7) 産業別の年齢階級別就業者数④長井市

- 農業、林業において高齢者の割合が高い（65歳以上の就業者数が541人、平均年齢63.5歳）。
- 製造業が主要な産業であり、若年層（15～64歳）の就業者が多い（3437人、平均年齢45.6歳）。
- 卸売業、小売業の平均年齢が50.8歳と高めで、幅広い年齢層が従事していることが分かる。



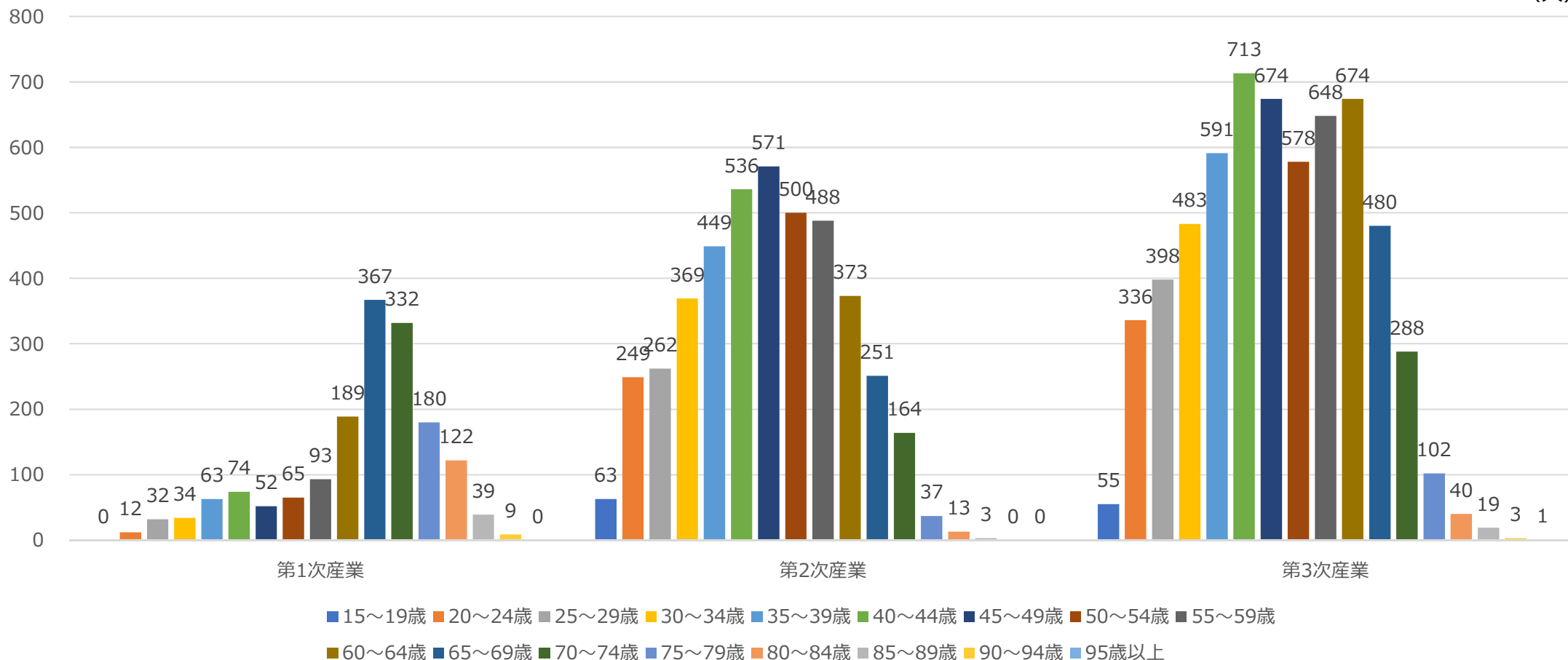
(7) 産業別の年齢階級別就業者数④長井市

産業3部門	産業	就業者数 (15～64歳)	就業者数 (65歳以上)	就業者数 (75歳以上)	就業者数 (85歳以上)	就業者数 (総数)	平均年齢
-	0_総数	11152	2507	546	69	13659	49.7
第1次	A_農業, 林業	347	541	146	22	888	63.5
第1次	B_漁業	2	2	-	-	4	52.5
第2次	C_鉱業, 採石業, 砂利採取業	7	3	-	-	10	55.5
第2次	D_建設業	969	303	48	2	1272	51.4
第2次	E_製造業	3437	290	38	2	3727	45.6
第3次	F_電気・ガス・熱供給・水道業	47	2	-	-	49	44.7
第3次	G_情報通信業	92	7	-	-	99	43.8
第3次	H_運輸業, 郵便業	252	58	5	-	310	52.3
第3次	I_卸売業, 小売業	1236	349	91	12	1585	50.8
第3次	J_金融業, 保険業	205	13	2	-	218	47.2
第3次	K_不動産業, 物品賃貸業	48	26	13	1	74	56.0
第3次	L_学術研究, 専門・技術サービス業	176	48	10	-	224	51.4
第3次	M_宿泊業, 飲食サービス業	369	129	29	4	498	52.6
第3次	N_生活関連サービス業, 娯楽業	234	81	29	3	315	53.1
第3次	O_教育, 学習支援業	518	56	4	1	574	48.5
第3次	P_医療, 福祉	1755	246	28	4	2001	47.8
第3次	Q_複合サービス事業	169	2	-	-	171	46.3
第3次	R_サービス業（他に分類されないもの）	435	134	27	4	569	53.3
第3次	S_公務（他に分類されるものを除く）	575	38	3	-	613	44.1
-	T_分類不能の産業	279	179	73	14	458	55.4

(7) 産業別の年齢階級別就業者数⑤高畠町

- 農業、林業が非常に大きな雇用の柱であり、特に高齢者の就業者数が多い（65歳以上の就業者数が1047人、平均年齢64.8歳）。
- 製造業もまた主要な産業であり、若年層（15～64歳）の就業者が多い（3037人、平均年齢45.9歳）。
- 医療、福祉の就業者数が多く、比較的若い年齢層が多く従事している（平均年齢46.2歳）。

(人)



(7) 産業別の年齢階級別就業者数⑤高畠町

産業3部門	産業	就業者数 (15～64歳)	就業者数 (65歳以上)	就業者数 (75歳以上)	就業者数 (85歳以上)	就業者数 (総数)	平均年齢
-	0_総数	9654	2454	569	74	12108	50.3
第1次	A_農業, 林業	614	1047	348	46	1661	64.8
第1次	B_漁業	-	2	2	2	2	87.0
第2次	C_鉱業, 採石業, 砂利採取業	5	1	-	-	6	54.8
第2次	D_建設業	818	232	26	2	1050	50.4
第2次	E_製造業	3037	235	27	1	3272	45.9
第3次	F_電気・ガス・熱供給・水道業	16	2	-	-	18	51.7
第3次	G_情報通信業	95	3	-	-	98	43.2
第3次	H_運輸業, 郵便業	336	53	3	1	389	50.4
第3次	I_卸売業, 小売業	1206	271	57	7	1477	49.3
第3次	J_金融業, 保険業	162	12	2	-	174	45.8
第3次	K_不動産業, 物品賃貸業	66	22	3	-	88	52.0
第3次	L_学術研究, 専門・技術サービス業	133	24	5	-	157	49.1
第3次	M_宿泊業, 飲食サービス業	357	112	25	5	469	50.8
第3次	N_生活関連サービス業, 娯楽業	255	87	19	3	342	51.6
第3次	O_教育, 学習支援業	431	38	3	-	469	47.4
第3次	P_医療, 福祉	1231	138	13	4	1369	46.2
第3次	Q_複合サービス事業	144	12	1	-	156	45.0
第3次	R_サービス業（他に分類されないもの）	375	139	33	3	514	53.3
第3次	S_公務（他に分類されるものを除く）	343	20	1	-	363	45.3
-	T_分類不能の産業	30	4	1	-	34	47.0

3. 総合戦略策定に係る各種意識調査 結果に基づく考察

（１）「学校卒業後の地元就職希望に関する意識調査」の結果からの示唆

- 上山市では、高校生等が就職を希望する職業・職種等に応じた一定の就業機会はあると考えられる。
- しかし、高校生等の若者の視点から見たとき、就業機会そのものの不十分さに加え、生活環境への満足や期待を持ちにくいことが、就職等に伴う転出の選択につながっている可能性がある。

①進学等に関する意向

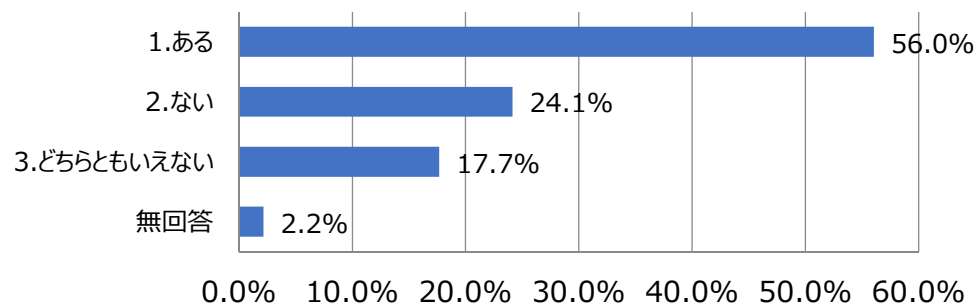
- 上山市の高校生等の約半数（56.0%）が卒業後、大学等へ進学予定。
- 15歳～19歳、20歳～24歳に転出が増加する傾向は、山形県内でも共通。
- 進学に伴う若者の転出の抑制は、大学や専門学校がない上山市単独での対応は困難。

②就職等に関する意向

- 上山市の高校生等の約４割（40.9%）が卒業後、就職予定。
- 希望する仕事が上山市内等にあると思う高校生等の割合は約５割（50.6%）。
- しかし、高校生等の将来の定住意向については、「仕事があっても住みたくない」とする回答が最も多く（39.7%）、「希望する仕事さえあれば住みたい」（34.5%）が続く。また、男性より女性の方がその傾向が強い。
- 住みたくない理由は、「生活の場として楽しくない」（28.1%）、「一生働く場としては満足できない」（24.6%）など。
- また、若者が定着するために上山市に必要なことでは、「生活上の楽しみの多い街にすること」が最も多い（21.2%）。

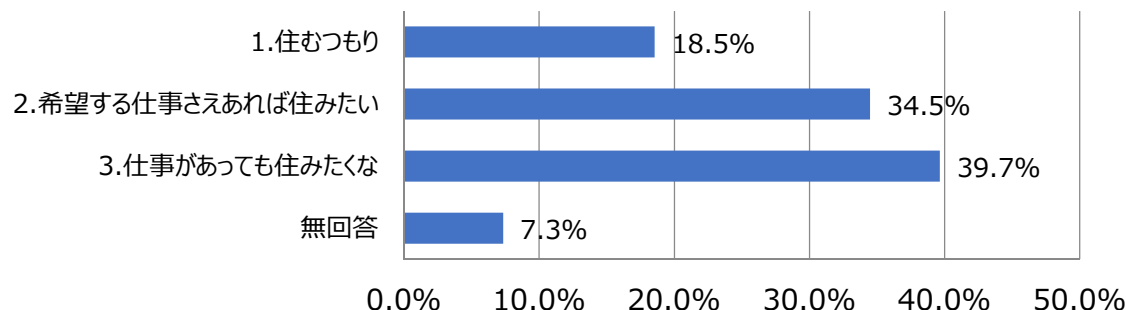
（１）「学校卒業後の地元就職希望に関する意識調査」の結果からの示唆

問12 あなたが希望される仕事は、上山市あるいはその近隣地域にあると思いますか



項 目	回答数	%
1.ある	130	56.0%
2.ない	56	24.1%
3.どちらともいえない	41	17.7%
無回答	5	2.2%
小 計	232	100.0%

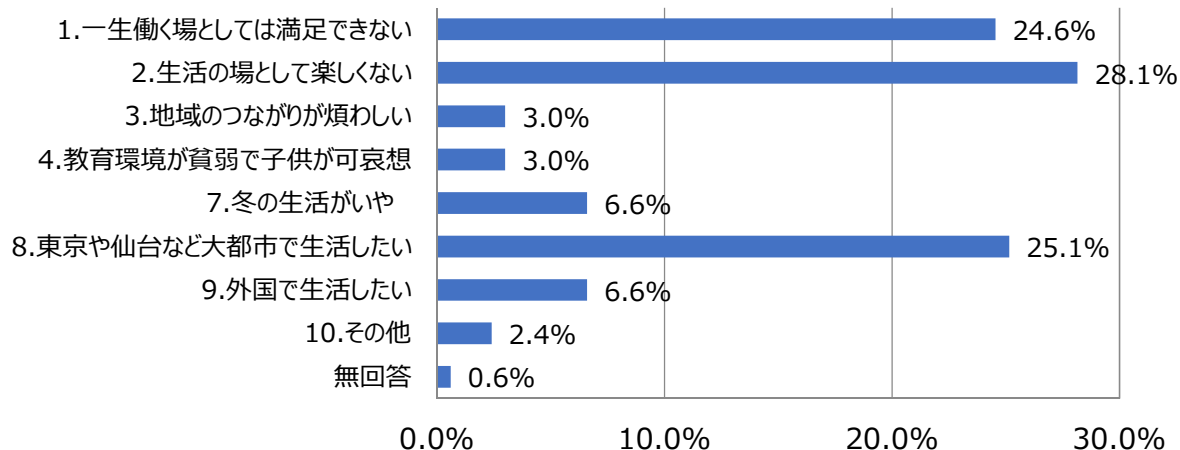
問13 将来、上山市及びその近隣地域に住みたいと思いますか。



項 目	回答数	%
1.住むつもり	43	18.5%
2.希望する仕事さえあれば住みたい	80	34.5%
3.仕事があっても住みたくない	92	39.7%
無回答	17	7.3%
小 計	232	100.0%

付問13-2 住みたくない方におたずねします。

住みたくない理由は何ですか（複数可）。



項 目	回答数	%
1.一生働く場としては満足できない	41	24.6%
2.生活の場として楽しくない	47	28.1%
3.地域のつながりが煩わしい	5	3.0%
4.教育環境が貧弱で子供が可哀想	5	3.0%
7.冬の生活がいや	11	6.6%
8.東京や仙台など大都市で生活したい	42	25.1%
9.外国で生活したい	11	6.6%
10.その他	4	2.4%
無回答	1	0.6%
小 計	167	100.0%

（２）「住民の子育て環境等に関する意識や希望の調査」の結果からの示唆

- 実際の子育てを経験した人の回答に着目すると、上山市の学校環境や学習設備の充実度合い、学校教育内容に対する評価は高く、教育の質に対する一定の評価を得ていると考えられる。
- 他方、仕事と子育てを両立する仕事・雇用環境には課題があるといえる。子育て環境に対する否定的な回答も高く、改善が期待される。
- 上山市で実施している子育て支援事業に関する情報の入手先としては、「市報かみのやま」が最も多く（49.2%）、「市公式LINEなどのSNS」（15.7%）が続く。

①「既婚で子どものいる人」の評価

※肯定的な評価とは「よいと思う」、「まあまあだと思う」の計、否定的な評価とは「あまり十分とはいえない」、「極めて不十分」の計を意味する。

上山市の子育て環境

- 肯定的な評価は49.6%、否定的な評価は45.1%。

上山市の学校環境や学習設備の充実度合い

- 肯定的な評価は59.5%、否定的な評価は24.3%。

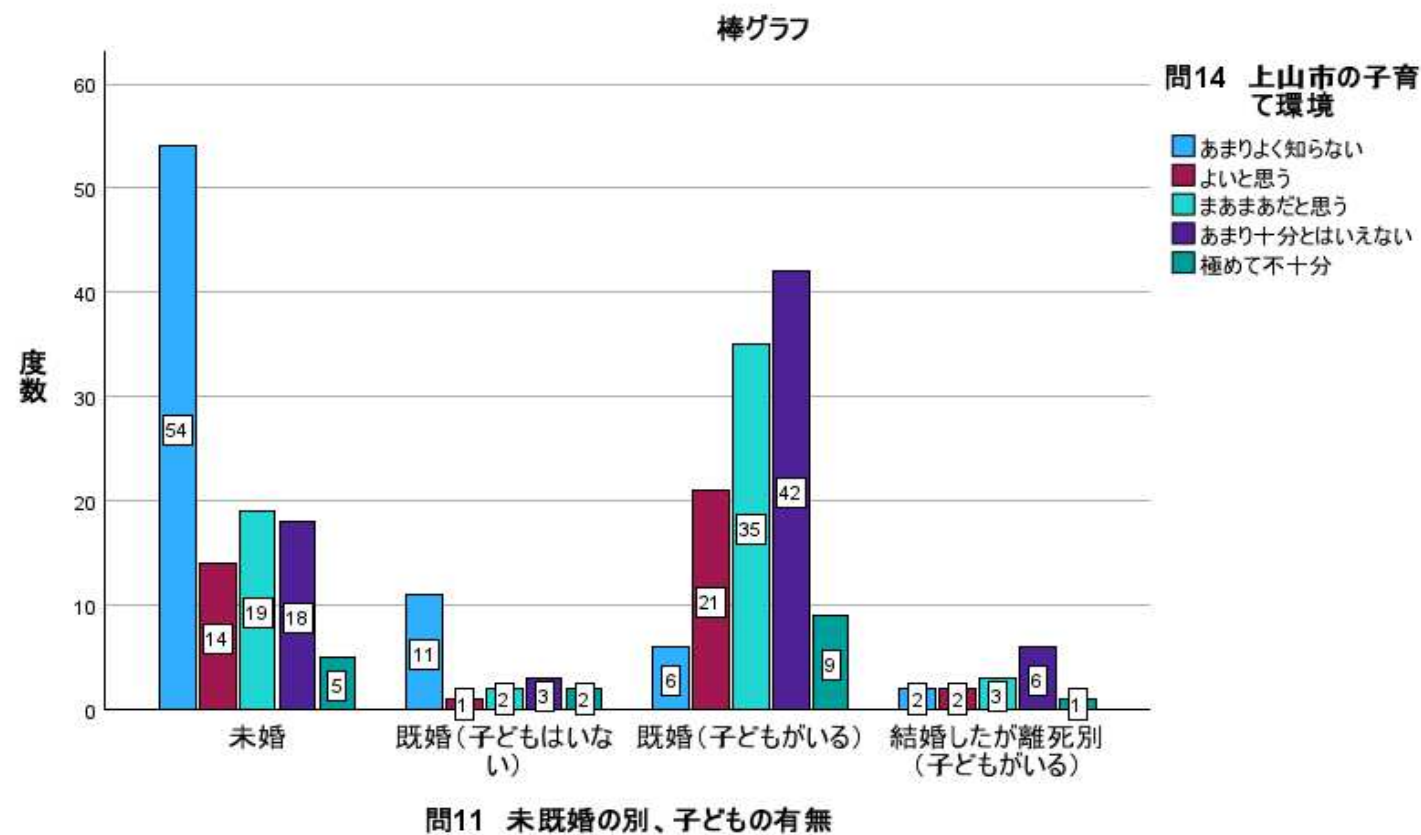
学校教育内容

- 肯定的な評価は51.4%、否定的な評価は20.7%。

仕事と子育てを両立する仕事・雇用環境

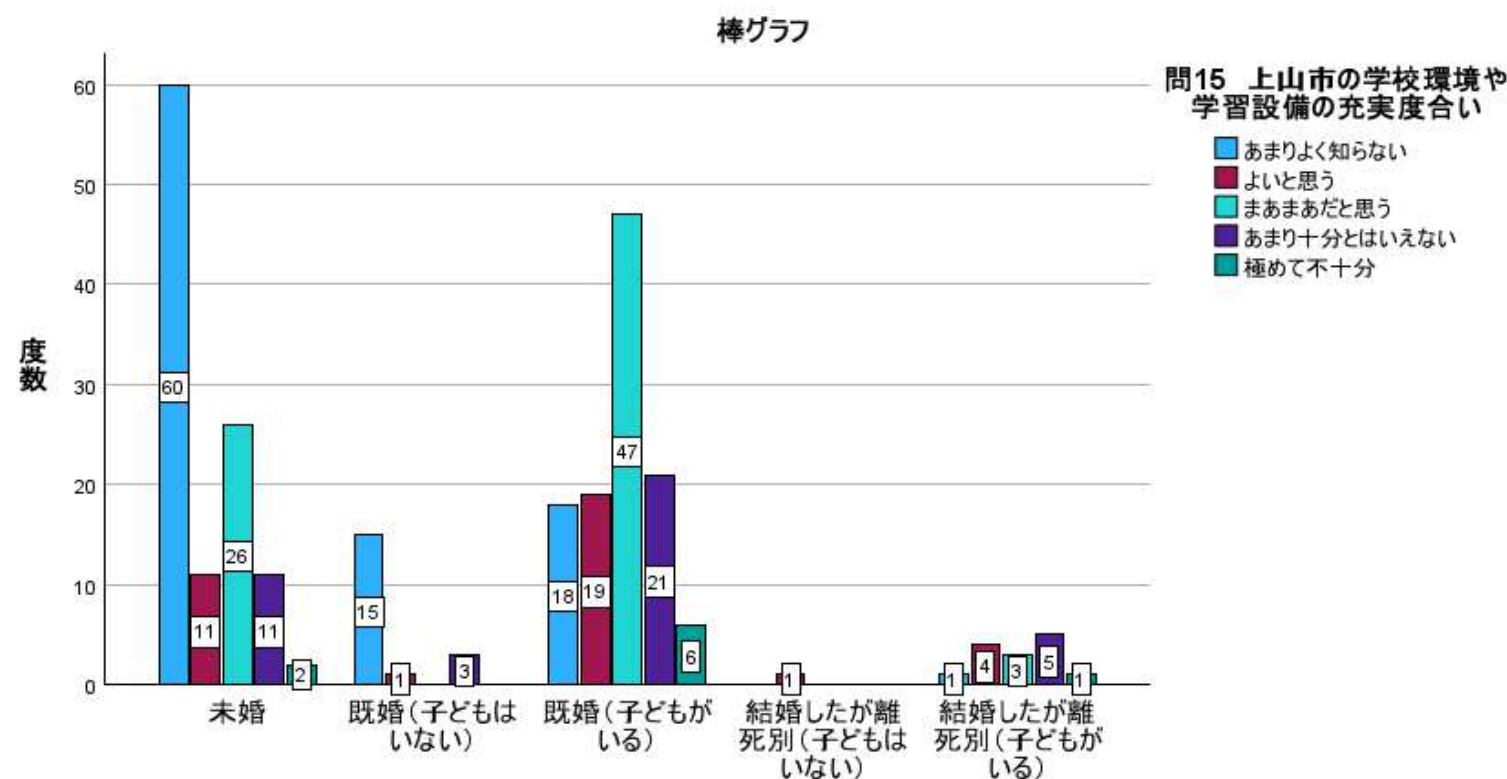
- 肯定的な評価は37.5%、否定的な評価は42.9%。

(2)「住民の子育て環境等に関する意識や希望の調査」の結果からの示唆



問11 未既婚の別、子どもの有無			問14 上山市の子育て環境					合計
			あまりよく知らない	よいと思う	まあまあだと思う	あまり十分とはいえない	極めて不十分	
問11 未既婚の別、子どもの有無	未婚	度数	54	14	19	18	5	110
		問11 未既婚の別、子どもの有無 の %	49.1%	12.7%	17.3%	16.4%	4.5%	100.0%
	既婚（子どもはいない）	度数	11	1	2	3	2	19
		問11 未既婚の別、子どもの有無 の %	57.9%	5.3%	10.5%	15.8%	10.5%	100.0%
	既婚（子どもがいる）	度数	6	21	35	42	9	113
		問11 未既婚の別、子どもの有無 の %	5.3%	18.6%	31.0%	37.2%	8.0%	100.0%
	結婚したが離死別（子どもがいる）	度数	2	2	3	6	1	14
		問11 未既婚の別、子どもの有無 の %	14.3%	14.3%	21.4%	42.9%	7.1%	100.0%
合計		度数	73	38	59	69	17	256
		問11 未既婚の別、子どもの有無 の %	28.5%	14.8%	23.0%	27.0%	6.6%	100.0%

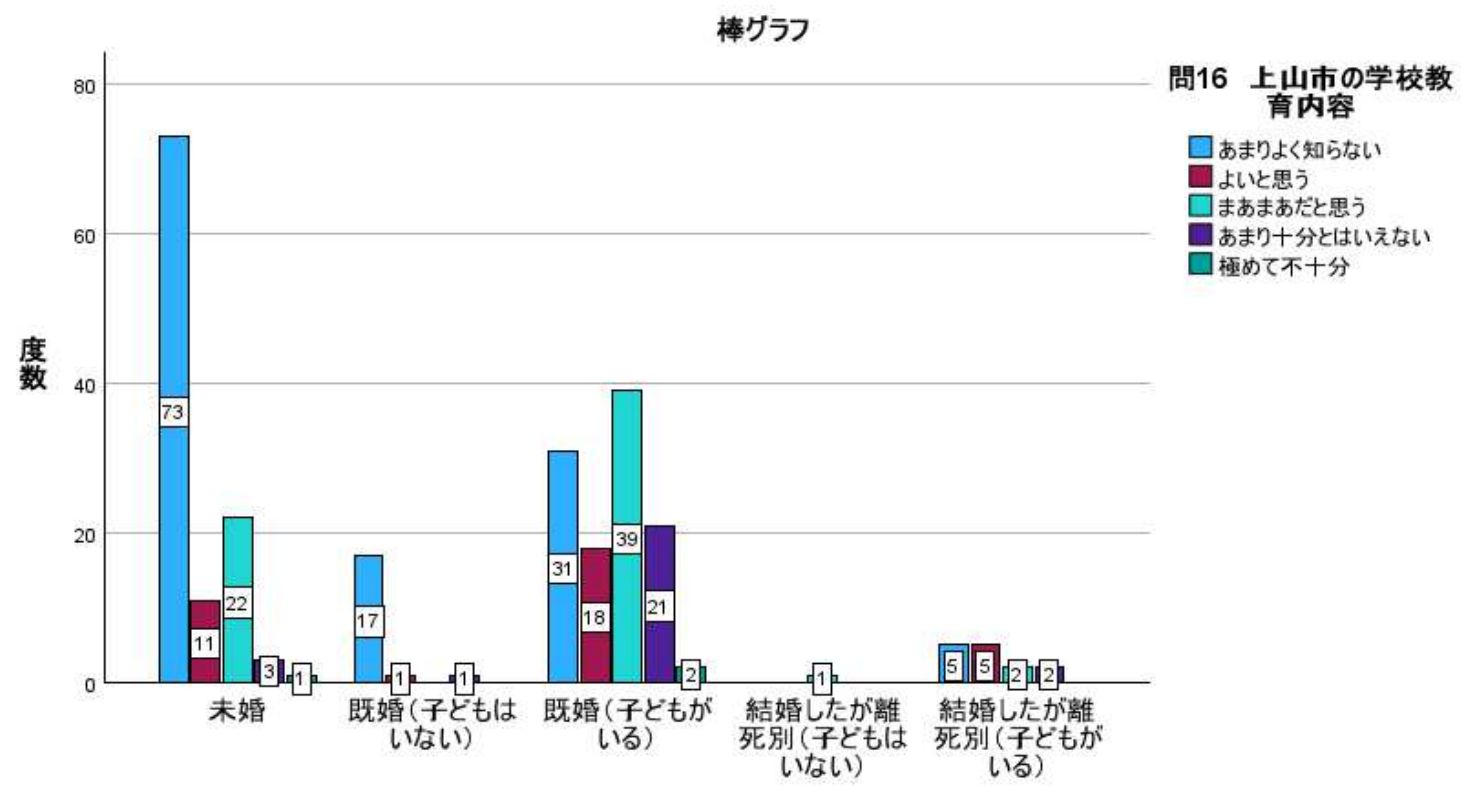
(2)「住民の子育て環境等に関する意識や希望の調査」の結果からの示唆



問11 未既婚の別、子どもの有無

		問15 上山市の学校環境や学習設備の充実度合い						
		あまりよく知らない	よいと思う	まあまあだと思う	あまり十分とはいえない	極めて不十分	合計	
問11 未既婚の別、子どもの有無	未婚	度数	60	11	26	11	2	110
		問11 未既婚の別、子どもの有無 の %	54.5%	10.0%	23.6%	10.0%	1.8%	100.0%
	既婚（子どもはいない）	度数	15	1	0	3	0	19
		問11 未既婚の別、子どもの有無 の %	78.9%	5.3%	0.0%	15.8%	0.0%	100.0%
	既婚（子どもがいる）	度数	18	19	47	21	6	111
		問11 未既婚の別、子どもの有無 の %	16.2%	17.1%	42.3%	18.9%	5.4%	100.0%
	結婚したが離死別（子どもはいない）	度数	0	1	0	0	0	1
		問11 未既婚の別、子どもの有無 の %	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	結婚したが離死別（子どもがいる）	度数	1	4	3	5	1	14
		問11 未既婚の別、子どもの有無 の %	7.1%	28.6%	21.4%	35.7%	7.1%	100.0%
	合計	度数	94	36	76	40	9	255
		問11 未既婚の別、子どもの有無 の %	36.9%	14.1%	29.8%	15.7%	3.5%	100.0%

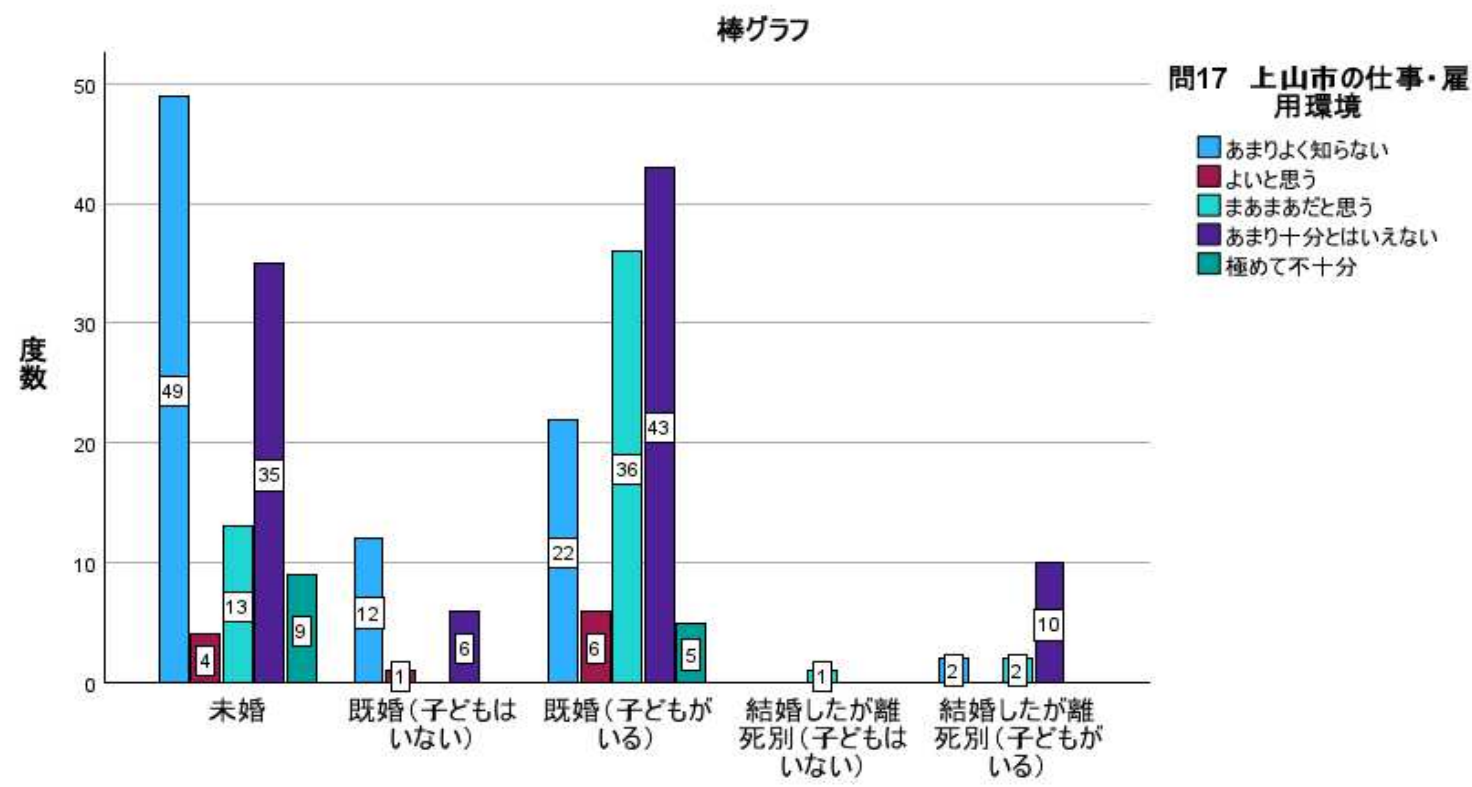
(2)「住民の子育て環境等に関する意識や希望の調査」の結果からの示唆



問11 未既婚の別、子どもの有無

			問16 上山市の学校教育内容					合計
			あまりよく知らない	よいと思う	まあまあだと思う	あまり十分とはいえない	極めて不十分	
問11 未既婚の別、子どもの有無	未婚	度数	73	11	22	3	1	110
		問11 未既婚の別、子どもの有無 の %	66.4%	10.0%	20.0%	2.7%	0.9%	100.0%
	既婚（子どもはいない）	度数	17	1	0	1	0	19
		問11 未既婚の別、子どもの有無 の %	89.5%	5.3%	0.0%	5.3%	0.0%	100.0%
	既婚（子どもがいる）	度数	31	18	39	21	2	111
		問11 未既婚の別、子どもの有無 の %	27.9%	16.2%	35.1%	18.9%	1.8%	100.0%
	結婚したが離死別（子どもはいない）	度数	0	0	1	0	0	1
		問11 未既婚の別、子どもの有無 の %	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	結婚したが離死別（子どもがいる）	度数	5	5	2	2	0	14
		問11 未既婚の別、子どもの有無 の %	35.7%	35.7%	14.3%	14.3%	0.0%	100.0%
合計	度数		126	35	64	27	3	255
	問11 未既婚の別、子どもの有無 の %		49.4%	13.7%	25.1%	10.6%	1.2%	100.0%

(2)「住民の子育て環境等に関する意識や希望の調査」の結果からの示唆



問11 未既婚の別、子どもの有無

			問17 上山市の仕事・雇用環境					合計
			あまりよく知らない	よいと思う	まあまあだと思う	あまり十分とはいえない	極めて不十分	
問11 未既婚の別、子どもの有無	未婚	度数	49	4	13	35	9	110
		問11 未既婚の別、子どもの有無 の %	44.5%	3.6%	11.8%	31.8%	8.2%	100.0%
	既婚 (子どもはいない)	度数	12	1	0	6	0	19
		問11 未既婚の別、子どもの有無 の %	63.2%	5.3%	0.0%	31.6%	0.0%	100.0%
	既婚 (子どもがいる)	度数	22	6	36	43	5	112
		問11 未既婚の別、子どもの有無 の %	19.6%	5.4%	32.1%	38.4%	4.5%	100.0%
	結婚したが離死別 (子どもはいない)	度数	0	0	1	0	0	1
		問11 未既婚の別、子どもの有無 の %	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	結婚したが離死別 (子どもがいる)	度数	2	0	2	10	0	14
		問11 未既婚の別、子どもの有無 の %	14.3%	0.0%	14.3%	71.4%	0.0%	100.0%
	合計	度数	85	11	52	94	14	256
		問11 未既婚の別、子どもの有無 の %	33.2%	4.3%	20.3%	36.7%	5.5%	100.0%

(3) 「地方移住の希望に関する意識調査」の結果からの示唆

- 上山市の住みやすさとして、自然環境の豊かさや住宅条件が強みとなっている可能性がある。
- 他方、上山市の住みにくさとして、買い物などの日常生活の利便性や、市内交通や大都市へのアクセス、多様な雇用機会等が弱みとなっている可能性がある。

① 転出者

- 転出の主な理由は、その他を除くと、「仕事に適した地域に住みたくて」（12.1%）が最も多く、「転勤で」（11.4%）、「転職・再就職で」（9.1%）、「こちらの人と結婚したため」（9.1%）等が続く。
- 上山市と転出先の住みやすさの比較では、「買い物など日常生活が便利」（22.7%）が最も多く、「市内交通の便がよい」（12.6%）、「大都市への交通の便がよい」（11.9%）、「多様な仕事の場がある」（11.2%）等が続く。

② 転入者

- 通勤先や通学先では、「山形県内」が50.9%で最も多く、「上山市内」は35.3%。
- 元々の出身地では、「上山市以外の山形県」が41.9%で最も多く、「上山市」が33.1%。
- 転入の主な理由は、その他を除くと、「こちらの人と結婚したため」（13.2%）が最も多く、「親との同居・近居のため」（11.8%）、「転勤で」（9.3%）、「転職、再就職で」（9.3%）等が続く。
- 前住地と上山市の住みやすさの比較では、「空気や水、食べ物が美味しい」（13.6%）が最も多く、「街に自然が多く美しい」（12.7%）、「住宅条件（価格、家賃、広さなど）がよい」（11.3%）等が続く。
- 前住地と上山市の住みにくさの比較では、「買い物など日常生活が不便」（15.7%）が最も多く、「市内交通の便がよい」（13.1%）、「多様な仕事の場がない」（12.4%）等が続く。

4. 第3期上山市まち・ひと・しごと創生総合戦略 基本目標（案）の検討

（１）第３期上山市まち・ひと・しごと創生総合戦略 基本目標検討の視点

- 出生率の増加を目指す場合、20～39歳の女性人口（若年女性人口）を含む、20代、30代の転出抑制・転入増加に主眼を置くことが必要となる。
- また、その前提として、地域の生活環境の質の向上に向けた取り組みが必要となる。

１．15歳～19歳→20歳～24歳の転出抑制・転入増加

- 比較対象団体でも同様の傾向がある。進学等に伴う転出と考えられ、大学や専門学校がない本市での問題解決は難しい。

２．20歳～24歳→25歳～29歳の転出抑制・転入増加

- 就職等によるライフステージの変化が発生する時期。
- 新社会人などが一人暮らしを始めるとき。雇用機会の多さが一つの選択の要素と考えられる。
- また、若者視点からみると、生活環境に満足できていない可能性がある。。

３．25歳～29歳→30歳～34歳、30歳～34歳→35歳～39歳の転出抑制・転入増加

- 結婚、出産・育児等のライフステージの変化が発生する時期。
- 住宅の購入など、生活環境の質が一つの選択の要素と考えられる。
- また、子育て世代の視点からみると、子育て等に関する情報が十分に提供できていない可能性がある。

分析内容を庁内全体で議論を深めながら、KPI・具体的施策を検討していく必要がある。

(2) 地域ビジョン（案）

■ 第8次上山市振興計画の将来都市像を踏まえ、地域の個性や魅力を生かして上山市が目指すべき理想像を下記の通り示す。

- 現在の社会情勢は、全国的に多発する自然災害、原油価格・物価高騰に加え、少子高齢化や人口減少、それに伴う地域コミュニティの衰退といった従来からの構造的課題はより深刻化している。また、SDGsの理念に基づく取組、グリーン化やデジタル化を軸とした新たな時代が到来している。
- こうした状況を踏まえ、本市をより良い形で次の世代へ引き継ぐためには、まちづくりの方向性を市民と行政が共有し、これまで以上に市民主体のまちづくりが求められる。
- 本市は、温泉や果物、美しい自然環境、歴史や伝統文化など豊かな地域資源で彩られていることが特徴である。そして、日常生活にある「あたり前」が実は貴重な地域資源であるとともに、それに気づき活かす人も地域資源である。
- このような本市の豊かな地域資源を生かし、人々が住み続け楽しいまちにするためには、まちづくりを「自分ゴト」として取り組む市民を増やし、つながりの輪を広げることが重要である。世代を経て、脈々と受け継がれた地域資源を結び付け、つなげていくことで、彩り輝くまちを創り、本市の持続可能な発展につなげていくため、次のプロジェクトに重点的に取り組む。

(2) 地域ビジョン (案)

1 人口の維持につなげる プロジェクト	質の高い保育・子育てサービスの充実を図るとともに、妊娠・出産・子育てに係る相談体制を強化し、ライフステージに応じた出産・子育て支援を推進します。 加えて、社会や子どもの教育的ニーズに対応した魅力ある学校づくりや英語による実践的なコミュニケーション能力の育成、生涯学習環境の整備等、学びの環境の充実を図ります。 また、健康を支える環境づくりの推進や生涯にわたり誰もが楽しめるスポーツ活動を推進するとともに、地域医療体制の維持、介護予防事業や認知症施策の充実等、健康寿命の延伸につなげる健康づくりを推進します。
2 持続可能な都市構造につなげる プロジェクト	計画的な道路の維持整備に取り組むとともに、空き家対策による安全・安心な居住環境づくりや若者・子育て世代などが居住しやすい環境づくり、駅周辺的环境整備に取り組み、官民連携による「かみのやま温泉駅」東西エリア整備を進めます。 また、中心市街地における商業機能の強化・集積、個店の魅力向上等を支援するとともに、古き良き歴史と風情あるまち並みを感じられる景観づくりを進め、中心市街地の賑わいを創出します。
3 地域資源を活かし 地域の好循環につなげる プロジェクト	市への来訪・交流、購買促進により本市と「縁」を持つ人の輪を広げるとともに、スポーツによる地域活性化や豊富な地域資源を結び付けた価値の高いサービスの提供等により強い観光産業を創り、地域資源を活用した交流人口の拡大を図ります。 また、市内の商工業・観光業・農業や文化財・文化芸術等、地域資源の組み合わせによる地域産業の振興を図ります。

(3) 第3期上山市まち・ひと・しごと創生総合戦略 基本目標（案）

- 第2期のプロジェクトを継続しつつ、さらに推進をはかる。
- 上山市出身者のUターンを促進する目標を設定する。
- 生活環境の質の向上をめざす施策を設ける。

基本目標	数値目標	基本方針
活力と挑戦 ～人生を豊かに彩る働く場所を創造するまちへ～	● 市内総生産	魅力的な働く場所をつくる
交流と繋がり ～自由な発想で人々が行き来するまちへ～	● 宿泊客数 ● 社会増減（転入者数－転出者数）	人の流れをつくる
幸せと笑顔 ～安心して子育てできるまちへ	● 出生率 ● 20歳台の純移動数	安心して子どもを産み育てられる環境をつくる
魅力と持続 ～選ばれるまちづくりに挑戦するまちへ～	● 住み続けたい率 ● かみのやま温泉駅東エリアにおける地価公示価格	魅力的な地域をつくる